平成２８年度仙台版防災教育研究推進取組発表校について

研究推進取組発表校は，学校・地域の実態に応じた年間指導計画を基に，実践内容や児童生徒の変容等，実践の成果を，各地区防災教育研究協議会（９月），研究推進取組発表校発表会（１月）において発信した。

※発表資料は次ページから掲載

【平成２８年度仙台版防災教育研究推進取組発表校】　３１校

〔青葉区〕	大沢小学校	川前小学校	大沢中学校	
	上杉山通小学校	上杉山中学校		
〔若林区〕	沖野小学校	沖野東小学校	沖野中学校	
〔宮城野区〕	中野栄小学校	福室小学校	中野中学校	
〔太白区〕	柳生小学校	西中田小学校	柳生中学校	
	秋保小学校	馬場小学校	湯元小学校	秋保中学校
〔泉区〕	鶴が丘小学校	松森小学校	鶴が丘中学校	
	南中山小学校	北中山小学校	南中山中学校	
	高森小学校	高森東小学校	高森中学校	
	根白石小学校	実沢小学校	福岡小学校	根白石中学校

平成２８年度 仙台版防災教育 研究推進取組発表校　発表会
～3．１１から未来へ～

１　**ねらい**　平成２８年度仙台版防災教育研究推進取組発表校が，学校や地域の実態に応じた年間指導計画を基に実践した内容や児童生徒の変容を発表し，取組の成果と知見を仙台市全体で共有する。

２　**日　時**　平成２９年1月２７日（金）１４：００～１６：４５

３　**場　所**　仙台市教育センター

４　**発表等の時程**

会場／時間	２・３研修室（太白区）	10・11研修室（青葉区）	７研修室（若林区・泉区）	８研修室（宮城野区・泉区）	９研修室（泉区）
14:00～14:25	**全体会**（大研修室） 1　開会 2　学校教育部長あいさつ 3　研究開発学校「防災安全科」の取組について（仙台市立七郷小学校） 4　事務連絡				
14:25～14:30	移　動				
14:30～14:45	西中田小	川前小	沖野東小	福室小	松森小
14:45～15:00	柳生小	大沢小	沖野小	中野栄小	鶴が丘小
15:00～15:15	柳生中	大沢中	沖野中	中野中	鶴が丘中
15:15～15:25	休　憩				
15:25～15:40	馬場小	上杉山通小	実沢小	高森東小	北中山小
15:40～15:55	湯元小	上杉山中	福岡小	高森小	南中山小
15:55～16:10	秋保小	質　疑	根白石小	高森中	南中山中
16:10～16:25	秋保中・質疑	グループ討議	根白石中・質疑	質　疑	質　疑
16:25～16:45	○グループ討議 ○講評 ○閉会（分科会ごと）				

3校合同

平成２８年度 研究推進取組発表校 一覧

学 校 名	区	年間指導計画作成上の工夫	P
西中田小学校	太白区	地域と連携した防災教育	1･2
柳生小学校	太白区	地域から学ぶ防災教育	3･4
柳生中学校	太白区	小学校と連携した地域合同防災訓練をとおして進める防災教育	5･6
馬場小学校	太白区	地域と連携して進める防災教育	7･8
湯元小学校	太白区	防災副読本活用の工夫，地域と連携して進める防災訓練，防災授業の公開と家庭との連携等をとおして進める防災教育	9･10
秋保小学校	太白区	自ら判断し，主体的に行動できる児童を育てる防災教育	11･12
秋保中学校	太白区	地域と連携して，人とのつながりを大切にする防災教育	13･14
川前小学校	青葉区	中学校や地域と連携した防災教育	15･16
大沢小学校	青葉区	地域や家庭，中学校と連携して進める防災教育	17･18
大沢中学校	青葉区	地域（小中，地域住民）と連携して進める防災教育	19･20
上杉山通小学校	青葉区	授業実践を通して児童に自助・共助の力を育む防災教育	21･22
上杉山中学校	青葉区	生徒の地区別グループを組織化し，自主的に安全確保できる生徒を育てる防災教育	23･24
沖野東小学校	若林区	９年間で育む児童生徒像，連携（小中学校・地域・行政）等を基に進める防災教育 －沖野学園として，義務教育９年間を見通した年間指導計画の作成－	25･26
沖野小学校	若林区		27･28
沖野中学校	若林区		29･30
福室小学校	宮城野区	発達段階に応じた防災対応力を高める防災教育	31･32
中野栄小学校	宮城野区	家庭と連携して，自助の知識や行動を身に付けるための防災教育	33･34
中野中学校	宮城野区	ボランティア活動をとおして共助の精神を養う防災教育	35･36
実沢小学校	泉 区	地域との連携を高める防災教育	37･38
福岡小学校	泉 区	主体的に地域・保護者と連携して進める防災教育	39･40
根白石小学校	泉 区	地域の特徴を知り，適切に行動できる防災教育	41･42
根白石中学校	泉 区	公所・地域との連携，行事や防災教育副読本を活用した防災教育	43･44
高森東小学校	泉 区	横断的に全教育活動で行う防災教育，協働型学校評価の目標と関連付けた防災教育	45･46
高森小学校	泉 区	避難訓練などを中心とした防災教育	47･48
高森中学校	泉 区	災害発生時における自助の方法と中学生としてどのように共助に関われるかを考えることができるようにする防災教育	49･50
松森小学校	泉 区	教科･領域の指導に関連させた防災教育年間指導計画に基づいた防災教育	51･52
鶴が丘小学校	泉 区	自分づくり教育を生かした防災教育 －総合的な学習の時間や特別活動と関連づけた年間指導計画の工夫－	53･54
鶴が丘中学校	泉 区	地域との交流・連携を図った防災教育	55･56
北中山小学校	泉 区	教科・領域に防災教育を重ねた年間指導計画に基づく防災教育	57･58
南中山小学校	泉 区	人との関わりや，仙台版防災教育副読本の活用をとおして進める防災教育	59･60
南中山中学校	泉 区	生徒が自ら考え，地域とともに取り組む防災教育	61･62

仙台版防災教育　研究推進取組発表校　資料

仙台市立西中田小学校　第６学年

１　学校・地域の実態について

学校と地域の結びつきが強く，毎年，地域と学校の合同防災訓練を実施している。ただ，東日本大震災の被害が比較的少なかった。また，名取川に近く，大雨の時などは道路に水があがる場所もある。しかし，川に対する危機感は薄いと思われる。

２　平成２８年度　仙台版防災教育で目指すべき児童生徒の姿

〈自助〉　災害時に関する基礎的知識と対処方法を身に付け，非常時にも適切に判断し，自らの安全を確保できる児童

〈共助〉　災害時に自分の役割を見つけ，進んで地域の力になれる児童

３　目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント（キーワードで）

地域と連携した防災学習・後世に語り継ぐことができる防災学習

４　年間指導計画に基づいて実践した結果，児童生徒はどのように変容したか

年間指導計画に基づいた防災学習の実践とともに，総合的な学習の時間で「生き方」をテーマに学習を展開してきた。訓練を通した実際的対応の仕方を身に付けるだけでなく，「命」を大切にする気持ちや今後の復興に関する意識を高めることができた。

＜　年間指導計画に基づいた実践の具体　＞

１　６年授業『熊本地震を考える』（年間指導計画９月）

４月に発生した熊本地震についての学習を年間指導計画に位置づけて取り組んだ。

本校から熊本市に派遣されている教員と連携して熊本県の被災の様子などを伝えてもらい，東日本大震災当時の仙台市の被災状況を振り返りながら学習を進めた。

熊本の現在の状況や復興を考えることで，自分たちが住む宮城県の復興の在り方についても関心を高めることができた。

６年生 総合の授業の様子

２　学校・地域合同防災訓練（年間指導計画１０月）

本校は毎年，学校・地域合同防災訓練を行ってきているが，今年は中学校区の３校と中田西部地区が合同で防災訓練を行った。

指定避難所ごとに各種訓練と防災の授業を行った。訓練や防災の授業は小中学生一緒に行ったが，中学生が小学生の面倒をよく見て活動していた。

３校・地域合同という初めての大きな訓練だったが，地域の方々も大変協力的だった。

防災訓練の授業の様子

平成28年度

《第6学年》

防災教育年間指導計画

防災対応力の構成要素		知識		技能		態度	
学習内容		防災や災害に関する周辺的・基礎的な内容		防災や災害に関する直接的な内容		防災や災害に関する間接的な内容	
月	教科・領域／関連行事等	教科	総合		特活		道徳
4		・物の燃え方と空気（理科）			・登下校の安全 ・避難経路の確認 ・非常時下校体制の確認		・その向こうに（防災副読本）
5	・家庭訪問 ・避難訓練（不審者）				・大きな災害と人間の心の動き（防災副読本） ・家族防災会議を開こう（副読本）		
6	・引き渡し訓練 ・避難訓練（地震） ・修学旅行	・病気の予防（体育）	・チャレンジ！子ども防災モニター（防災副読本）		・避難訓練事前事後指導		
7					・災害時の家族の約束	・夏休みの生活	・愛校心
8	・親子清掃					※地域の危険箇所	
9		・着衣水泳（体育）	・熊本地震を考えろ（復興のために） ・地震を乗りこえようとした先人の知恵（副読本）				
10	・泉ヶ岳野外活動 ・地域防災訓練	・大地のつくりと変化（理科） ・地震のメカニズムを知ろう（副読本）		・避難所設営補助	・災害発生への対応	・PTA行事への参加 ・地域行事への参加	・愛校心
11	・避難訓練（火災） ・学習発表会 ・西中田げんきっ子まつり	・新しい日本，平和な日本（社会）			・避難訓練事前事後指導		・勤労・社会奉仕
12							
1		・電気とわたしたちのくらし（理科） ・わたしたちのくらしと日本国憲法（社会） ・人々をつなげる活動					
2		・人と環境（理科） ・病気の予防（体育）	・未来へつなぐ（防災副読本）				
3		・日本の未来と日本の役割（社会） ・つながる～世界の国々と～（防災副読本）				・春休みの生活	

仙台版防災教育　研究推進取組発表校　資料

仙台市立柳生小学校　第５学年

１　学校・地域の実態について

・本校の学区は集合住宅等に新しく転入して居住する住民も多いが，一方で古くからこの地に居住し，この地域に対して愛着を持ち，町内会を中心に地域として連携・連帯を図ろうとする動きの見られる地域である。そのため，災害対策にはいち早く取り組んでおり，東日本大震災においても各町内会が中心になり，避難所運営に積極的に取り組んできた。学区には名取川があることから，水による被害や災害にも目を向けさせていきたい。

２　平成２８年度　仙台版防災教育で目指すべき児童生徒の姿

＜自助＞　災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け，非常時において自らの判断で，安全を確保できる児童
＜共助＞　身の回りの人や地域のために進んで協力し，活動しようとする児童

３　目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント（キーワードで）

＝地域から学ぶ防災学習＝

４　年間指導計画に基づいて実践した結果，児童生徒はどのように変容したか

○災害から私たちのくらしを守るために，多くの人たちが普段から様々な備えを行っていることやその重要性に気付き始めている。**（備えの重要性）**
○災害時においては地域の人たちとの協力が必要不可欠であり，そのためには普段から挨拶運動等を通じて声を掛け合うことの大切さを理解し始めている。**（協力の大切さ）**
○今後，自分たちが地域を支えていかなければならないという意識が高まってきている。**（地域の一員としての意識）**

＜　年間指導計画に基づいた実践の具体　＞

(1)　防災対応力を高めるための学習

<知識>５年理科「台風と天気の変化」「流れる水のはたらき」において，天気の変化と名取川のライブ映像を結びつけた授業の実践(8 月～10 月)を行った。地域を学ぶ学習を理科の授業に取り入れ，風水害への備えを考える契機とした。

<技能>地震想定避難訓練と引き渡し訓練を同時期に設定して実施し(6 月)，非常時の下校の仕方を学んだ。

<態度>火災想定避難訓練実施との関連性を生かした道徳の授業の実施「コースチャぼうやを救え」(11 月)により，自らの危険を予知し，安全を確保する大切さを学んだ。

＜小中合同訓練より＞

(2)　学校・地域合同防災訓練

今年度，柳生中学校区内３校(柳生中学校・柳生小学校・西中田小学校) 合同での防災訓練を行った。これまでの学校と地域の連携という視点に加えて，小中連携という新たな視点を取り入れての試みである。

当日は，集団での登下校訓練と合わせて，小中合同での様々な訓練や授業を行い，中学生が小学生に優しく接する姿が見られた。

地域では体育館を中心に，避難所開設訓練や炊き出し訓練も行った。

＜小中合同授業より＞

本校を指定避難所としている児童生徒の数は 1000 人を超え，地域や保護者の数を含めた，防災訓練への参加者は 1300 人という，規模の大きい防災訓練となった。活動の内容や準備計画において，繰り返し地域や関係機関と会議や打合せを重ねたことで，学校と地域と家庭がともに防災・安全について考えを深める契機となった。

防災教育年間指導計画　仙台市立柳生小学校　　第５学年

防災対応力の構成		知　識		技　能		態　度	
学習内容		防災や災害に関する周辺的・基礎的な内容		防災や災害に関する直接的な内容		防災や災害に関する間接的な内容	
	教科・領域 関連行事等	教　科	総　合		特　活		道　徳
4	・避難訓練（避難経路確認・集団行動） ・交通安全教室 ・戸口訪問				・登下校の安全・避難経路の確認・非常時下校体制の確認		
5	・戸口訪問					☆歩み出す力強く（１章②）	
6	・引き渡し訓練 ・避難訓練（地震）	・けがの防止（体育）			・避難訓練事前事後指導		
7	・集団下校訓練 ・復興プロジェクト ・野外活動	・できるようになったかな家庭の仕事（家庭）				・夏休みの生活	☆希望の詩～「ない」～（２章①）
8	・（地域行事への参加）	・台風と天気の変化				・地域行事への参加	・２（３）友情・信頼
9							・３（２）自然愛・動植物愛護
10	**・学校　地域 合同防災訓練**	・流れる水の働き（理科） **☆救命活動を体験しよう（体育）４章⑦**			**☆家族防災会議を開こう P36～37**	**・正しい避難の仕方を知ろう**	
11	・復興プロジェクト ・避難訓練（火災）				・避難訓練事前事後指導 ☆立ち上がれ！ぼくらの復興プロジェクト（２章④）		・３（１）生命尊重
12						・冬休みの生活	
1							
2						☆Heroes 2011Japan（５章⑤）	
3				☆仙台の自然災害年表・復興年表（６章③）	☆防災知識をチェックしよう（６章①）	春休みの生活	

☆副読本活用

仙台市立柳生中学校　第３学年

１　学校・地域の実態について

○生徒…７００名を超える大規模校である。震災時には,避難所でボランティア活動に参加した生徒もいる。また,被災し,本学区へ転入した生徒もいる。

○地域…仙台市南部の平地に位置する住宅街であるが,海からも遠く,震災時も甚大な被害は受けなかった家庭が多い。町内会などの地域住民は非常に協力的である。

２　平成２８年度　仙台版防災教育で目指すべき児童生徒の姿

進んで他者や地域と協力し,臨機応変に行動できる生徒の育成

３　目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント（キーワードで）

○小学校(西中田小,柳生小)と連携した,地域合同防災訓練(地域住民,居住生徒,教職員)

４　年間指導計画に基づいて実践した結果，児童生徒はどのように変容したか

学校・地域合同防災訓練を行ったことで,地域の方や同地区の小学生と積極的に交流し,小学生をリードする姿が見られた。また,教員や地域住民の指示をきちんと聞き,適切に行動できた。

＜　年間指導計画に基づいた実践の具体　＞

１．防災週間・地震想定の避難訓練・集団下校訓練(６月)

６月に地震を想定した教室からの避難訓練と,集団下校訓練を行った。事前の一週間を「防災週間」と位置付け,朝の短学活の時間を使って,防災学習を実施した。地震発生時の初期対応や,学校内外の危険箇所などを確認し合い,「自助」の力を高めることができた。また,避難訓練当日は生徒一人一つずつ非常用持ち出し袋の中身を空けて確認させ,非常時に必要な備蓄について理解を深めた。持ち出し袋の中には，水１本･カンパン１缶･アルファ米１食･レスキューシート･軍手一つ･歯ブラシセット１セットが入っている。非常用持ち出し袋は全校生徒分を備蓄倉庫に保管し,非常時に生徒に配付できるようにしている。さらに当日は,各教室からの避難経路の確認と,地区ごとの下校経路や解散場所の確認を行った。

２．学校・地域合同防災訓練(１０月)

１０月に柳生中学区の学校(柳生中,西中田小,柳生小)と連合町内会の方と合同で,地震発生時の避難訓練と,避難所立ち上げ訓練,防災授業などを行った。児童・生徒と地域住民の方は,居住地区のいっとき避難場所に避難し,その後指定避難所となる各学校へ避難した。各学校到着後は,地域の方は避難所立ち上げを行い,児童・生徒は話合い活動や,土嚢づくりなどの体験活動を行った。その後,各指定避難所から小中学生は集団下校を行い,柳生中では中学生が小学校低学年の児童を自宅付近まで付き添った。

仙台市立柳生中　学校

第 3 学年　（ 防災教育 ）　年間指導計画

学年	教科等	4月	5月	6月	7・8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
3年	教科	体:集団行動 外:地球温暖化と風力発電	体:応急処置・蘇生法　副読本	体:水泳 →	→	技:インターネットで情報を収集しよう	保:喫煙・飲酒・薬物 乱用、心の健康		国:副読本	理:自然環境の保全 理:自然の恵みと災害 副読本	理:原子力エネルギー 社:副読本	
	総合的な学習の時間		集団下校時の隊形・解散場所の確認									
	特別活動			非常時下校体制の確認 非常時備蓄品の確認	夏休みの生活			災害時の家族の約束	冬休みの生活			春休みの生活
	道徳	副読本	副読本									
	防災副読本	語り部として　1章③	約束　2章② 知っておきたい心肺蘇生　4章④	地震に備えよう 3章④				情報の振り回されないために　3章⑧	古典に残る災害を読んでみよう　3章⑦	世界で最も自然災害のリスクが高い日本 3章①	仙台市震災復興計画 2章⑥	防災知識のチェック 6章① 仙台の災害年表 6章③
総合的な学習の時間		学校の実態に応じて、例えば国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題についての学習活動、地域や学校の特色に応じた課題についての学習活動などを行う(学習指導要領より)										
学校行事			地区生徒会 故郷復興プロジェクト 地域清掃	防災週間 避難訓練 集団下校訓練			学校・地域合同防災訓練(中学校区)	防災週間 避難訓練 災害時の初期対応訓練 故郷復興プロジェクト				故郷復興プロジェクト
地域		中田神社　春祭り	西中田地区防災協議会		各地区の夏祭りへの参加		学校・地域合同防災訓練(中学校区)			中田神社どんと祭		

仙台版防災教育　研究推進取組発表校　資料

仙台市立馬場小学校　第４学年

１　学校・地域の実態について

東日本大震災の際には，被害がほとんど無く，避難所を開設することもなかった。しかし，昨年度は９月の大雨の際に土砂災害の危険性があったため避難所を開設し，２家庭が避難してくるなど，土砂災害の発生する可能性があることは地域住民と共通理解することができた。学校に対する保護者・地域の協力体制は厚く，防災教育を進めていく上で欠かすことのできない地域の協力は期待できる。

２　平成２８年度　仙台版防災教育で目指すべき児童生徒の姿

・災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け，臨機応変に自らの安全を確保できる児童
・非常時に進んで他の人や地域の力となれる児童

３　目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント

・地域と連携して進める防災教育

４　年間指導計画に基づいて実践した結果，児童生徒はどのように変容したか

・地域防災訓練では地域の人と協力して自分の住んでいる地域の危険箇所を確認することができた。自分の地域に潜む危険性について考えて生活できるようになった。地域の方と協力して活動することで地域のコミュニティーの一員であるという意識をより一層持つことができた。

＜　年間指導計画に基づいた実践の具体　＞

○　地域防災訓練（年間指導計画１１月）

１時間目に各学級で防災に関する授業を，２時間目には消防署の方による防災の授業を行った。保護者や地域の方々には各教室を参観していただいたり，活動に一緒に参加していただいたりした。３時間目には６つの地域に分かれ，前年度の地域防災訓練で作成した地域危険箇所マップの危険箇所を実際に歩いて確認する活動を行った。消防団の方に先導してもらい，保護者，児童，地域の方々一緒に危険箇所を見て回った。実際に歩いてみて新しく気がついた危険な場所については，現場の写真を撮って記録したり，地図に更に書き込んだりした。後日，児童は危険箇所を確認する活動を基にして，地区ごとに大地図に地域の危険箇所を再構成する活動を行った。

○　たてわり活動（通年）

馬場小学校では，毎日の清掃，給食の準備など，普段の学校生活の様々な活動をたてわり班で行っている。運動会の全校リレーもたてわり班で行い，上学年が下学年に教える様子が見られる。たてわり活動を通じて，下の学年の児童に優しくしたり，お互いに困ったことは助け合ったりという意識が育ってきている。特に上学年には，それぞれの班のリーダーとして動くという意識も育ってきている。

○　地域とつながる活動（あいさつ運動・５月地域清掃活動）

５月の地域清掃活動では，児童だけでなく，保護者や地域の方にも参加していただいて，一緒になってゴミ拾いの活動をしている。毎月行っているあいさつ運動では，校内の児童同士だけでなく，校門の外に出て，通りかかる地域の方に対しても，あいさつをするようにしている。地域の方からも，子どもたちに声を掛けてくださる様子や活動に対する好意的な声も聞かれ，地域の方との交流の機会になっている。

防災教育年間指導計画

馬場小学校 第4学年

防災対応力の構成要素		知　識		技　能		態　度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺的・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教　科	総　合		特　活		道　徳
4	・登校指導 ・交通安全教室 ・家庭訪問	・火事・地震からくらしを守る(社会) 地震と津波のメカニズムと災害(3章①)			・登下校の安全 ・避難経路の確認 ・たてわり班の編制 ・非常時下校体制の確認 ・安全な学校生活 ☆東日本大震災発生(1章①)	たてわり活動 あいさつ運動	
5	・復興プロジェクト(地域清掃) ・家庭訪問 ・防犯教室	・事故や事件からくらしを守る(社会)			・安全な通学		・何かお手伝いできることはありますか(思いやり・親切)
6	・避難訓練、引渡訓練				・避難訓練事前事後指導 ☆災害が起きたら(4章①)		
7	・復興プロジェクト ・避難訓練 ・4、5年野外活動 ・救急救命法研修会	・水はどこから(社会) ・水泳(体育)		・野外活動時の災害発生への対応	・避難の仕方を知ろう(不審者)	・夏休みの過ごし方 ☆立ち上がれ！ぼくらの復興プロジェクト(2章⑤)	
8	(地域行事への参加)		・わたしたちの名取川			・地域行事への参加	
9		・ごみのしょりと利用(社会) ☆地震のメカニズムを知ろう(3章①)			・楽しい校外学習にしよう ☆災害に備える(4章③)		
10	・登校指導 ・避難訓練			☆取り組もう！ボランティア活動(5章③)	・避難の仕方を知ろう(火災)		・バルバオの木(生命尊重)
11	・復興プロジェクト ・地域防災訓練				地域の危険を考えよう ☆災害が起きたら(4章①) ☆災害から身を守るために(4章②)		・しょうぼうだんのおじさん(感謝) ・ゆうき君の心配(思いやり・親切)
12		・県の広がりとくらし(社会) ・自然の中の水の姿(理科) ☆いろいろな自然災害(3章②)				・冬休みの過ごし方	
1		・物のあたたまり方(理科)		☆復興へ　今を力強く(2章②)	・災害から身を守ろう		・年老いた旅人(公徳心)
2		・特色のある地域と人々の暮らし(社会)			☆防災知識をチェックしよう(6章①)		・千春とわたし(家庭愛) ・走れ江ノ電(生命尊重)
3	・復興プロジェクト	・県やわたしたちの町の発展(社会)			・震災を振り返ろう ☆震災を乗りこえて(5章④) ☆仙台の自然災害年表・復興年表(6章③)		・ポロといっしょ(思いやり・親切) ☆取り組もうボランティア活動(5章③)

☆ 副読本活用

仙台版防災教育　研究推進取組発表校　資料

仙台市立湯元小学校　第６学年

１　学校・地域の実態について

・避難訓練や防犯教室など，防災に関する訓練は行っているが，どちらかというと単発的であり，防災に関する知識や態度が十分身に付いているとまではいえない。防災教育年間指導計画については，昨年度新しいものを作成しており，今後，実践していく手立てを工夫していく必要がある。

・これまで地域での防災訓練は行ってこなかった。地域的に土砂災害の被害を受ける場所であり，昨年の大雨でも避難警告が出ている。そこで，本年度は，学校と共同で「地域防災訓練」を実施した。

２　平成２８年度　仙台版防災教育で目指すべき児童生徒の姿

・災害が発生した際，自ら危険を予測し，命を守るために自主的に行動できる児童（自助）

・災害が発生した際，周囲の人々と助け合い，自分のできることを積極的にしようとする児童（共助）

３　目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント

・防災副読本活用のための工夫（指導事例の紹介）　・共助の精神をはぐくむためのたてわり活動

・地域と連携して進める防災訓練　・防災授業の公開と家庭との連携

４　年間指導計画に基づいて実践した結果，児童生徒はどのように変容したか

・毎月の聞き取り訓練をすることで，実際に地震が起きた際，すばやく机の下に潜ったり静かに話を聞いたりするなど，自分の身を守ろうとする行動が身についてきた。

・休み時間の聞き取り訓練は，上学年の児童が下学年児童の世話をするなど，他者に関心を持って助けていこうとする意識が高まってきている。

・地域防災訓練では，地区の方々と一緒に活動したり，授業や体験を参観してもらうことで，学校の取り組みや児童の様子を知ってもらうことができ，これまで以上に地域の方々とのつながりが深まった。

＜　年間指導計画に基づいた実践の具体　＞

１．地域防災訓練の実施

・今年度初めて地域との合同訓練を７月に行った。地域の方々は，学校への避難訓練と避難所開設を中心に行った。児童は，①全校集会で「災害から身を守るためには」学習，②避難訓練，③引き渡し訓練，④各学年ごとの防災授業，⑤学年部に分かれての防災体験を行った。各学年の授業や体験活動は，地域の方々にも参観いただき，本校での防災の取り組みを知ってもらう機会とした。

２．月１度の聞き取り訓練の実施

・災害時，落ち着いて話を聞くことは，自助・共助を考える際最も大切なことの一つである。そこで，毎月，緊急地震速報の CD を使って聞き取り訓練を行った。自分の取り組みがどうだったかしっかり振り返ることができるように「振り返りカード」を作成した。

３．特別外部講師による特別授業の実施

・地震発生のメカニズムや防災について，外部講師による理科特別授業を行った。地域性を考慮し，土砂災害についても学習した。

防災教育年間指導計画

湯元小学校　第6学年

防災対応力の構成要素		知識		技能		態度	
学習内容		防災や災害に関する周辺的・基礎的な内容		防災や災害に関する直接的な内容		防災や災害に関する間接的な内容	
月	教科・領域 / 関連行事等	教科	総合		特活		道徳
4	・戸口訪問 ・集団下校訓練 ・聞き取り訓練			・集団下校世話	・登下校の安全 ・避難経路の確認 ・非常時下校体制の確認		・社会的役割の自覚と責任
5	・交通安全教室 ・運動会 ・救命救急研修 ・聞き取り訓練				☆大きな災害と人間の心の動き(3-4)		☆震災を忘れない(1-3)
6	・避難訓練(業間) ・プール開き ・聞き取り訓練				・避難訓練事前事後指導		ふるさとの音(郷土愛)
7	・地域防災訓練(避難・引渡し・授業) ・湯元フェスティバル ・聞き取り訓練		☆家族防災会議を開こう(4-4)	☆応急手当の仕方(4-3)		・夏休みの生活	海は死なない(勤労奉仕)
8	(地域行事への参加)		☆地震を乗り越えた先人の知恵(4-9)			・地域行事への参加(湯元フェス)	
9	・着衣水泳(全学年) ・聞き取り訓練	・着衣水泳(体育)			・着衣泳(実技)		55年目の恩返し(感謝)
10	・全校遠足 ・防犯教室 ・聞き取り訓練	・大地のつくりと変化(理科) ☆地震・津波のメカニズムを知ろう(3-1・2:理科)		全校遠足の世話			ぼくの名前を呼んで(家族愛)
11	・学芸会 ・故郷復興プロジェクト ・理科特別授業(防災) ・聞き取り訓練	・町の幸福論(国語) ・地球のしくみと災害(理科)			・避難訓練事前事後指導	☆災害に備える(4-5)	
12	・避難訓練(火災) ・年末大掃除 ・聞き取り訓練	・震災復興を実現する政治(社会) ☆人々をつなげる活動(5-1:社会)				・冬休みの生活	
1	・聞き取り訓練				・下学年との交流		この命の輝きを(生命尊重)
2	・聞き取り訓練	☆つながる～世界の国々と～(5-1:社会)	☆災害に強い町作りを目指して(2-3)		☆防災知識をチェックしよう(6-1)		コウノトリの飛ぶ空(動植物愛護)
3	・聞き取り訓練 ・故郷復興プロジェクト ・年度末大掃除	・未来に向かって(国語) ・地球に生きる(理科)			☆仙台の自然災害年表・復興年表(6-3)	・春休みの生活	

☆副読本活用

仙台版防災教育　研究推進取組発表校　資料

仙台市立秋保小学校　第５学年

１　学校・地域の実態について

・仙台の南西部にあり，学区が広い。
・自然環境に恵まれ，山や川，崖も多い。
・学校の裏は崖になっており，獺沢川が流れている。
・自然災害だけではなく，クマや猿等が出没することがある。

２　平成２８年度　仙台版防災教育で目指すべき児童生徒の姿

・災害や防災に対する基礎的・基本的な知識を身に付けさせる。
・災害時に自らの命を守るために，自ら判断し安全な行動をとることができるようにする。
・自他の命を尊重し，共に助け合う精神と態度を養う。

３　目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント（キーワードで）

自ら判断し，主体的に行動できる児童を育てる防災教育

４　年間指導計画に基づいて実践した結果，児童生徒はどのように変容したか

・命の大切さを学び，自然に対する畏敬の念を抱いた。
・地域のことを学習することで，地域に対する親しみと愛着を高め，担い手としての意識を高めた。

＜　年間指導計画に基づいた実践の具体　＞

１　避難訓練（年間指導計画５月，７月，１１月）

１１月の避難訓練は，業間休みに火災が発生した場合を想定して行った。校庭や図書室など，いつもと違う場所での訓練ができ放送をよく聞いて避難しようとする姿が見られた。また，上級生は下級生と一緒に避難するという共助の意識を高めるきっかけとなった。

年３回の避難訓練を実施している。学校アンケートでは，「地震や火事の時の避難の仕方が分かる」の設問に対し，全体の９割近くの児童が「はい」と回答しており，一定の成果が見られる。

２　地域防災訓練（年間指導計画９月）

連合町内会が主催の地域防災訓練に小学生が参加した。防災資機材倉庫の確認や給水施設運用，簡易トイレの設置などを行い，地域ぐるみの防災教育を行うことができた。

３　理科「台風と天気の変化」「流れる水のはたらき」（年間指導計画９月，１０月）

水害・土砂災害ハザードマップや仙台版防災教育副読本も活用しながら学習を行った。学区に土砂災害特別警戒区域があることを知り，災害に対する備えや情報活用の重要性に気付いていた。

仙台市立秋保小学校

第５学年　　防災教育年間指導計画

防災対応力の構成要素		知識		技能	態度	
学習内容		防災や災害に関する周辺的・基礎的な内容		防災や災害に関する直接的な内容	防災や災害に関する間接的な内容	
月	教科領域／関連行事等	教科	総合	特活		道徳
4	・危険個所巡視 ・家庭訪問		秋保の人々のくらしと産業	・避難経路の確認	・歩み出す力強く（１章②）	
5	・交通安全教室 ・家庭訪問 ・避難訓練（地震） ・引き渡し訓練			・地震時の避難　災害時をくらすヒント（４章⑥）	・野外活動に向けて	・おばあちゃんが残したもの
6	・救急救命講習 ・野外活動	・応急手当の方法と救急車の呼び方（４章⑦　保健）				・お父さんは救急救命士
7	・避難訓練（不審者）	・心の健康（保健）心と向き合って（４章⑧）		・自分の身を守るには	・夏休みの過ごし方	・希望の詩～「ない」～（２章①）
8					・地域行事への参加	
9	・地域防災訓練	・着衣水泳（体育） ・台風と天気の変化（理科）いろいろな自然災害（３章③）				・ありがとう上手に
10		・流れる水のはたらき（理科）				
11	・収穫祭 ・避難訓練（火災）			・火事の際の避難		
12		・情報化した社会とわたしたちの生活（社会）災害時の情報手段（３章④）		・立ち上がれ！ぼくらの復興プロジェクト（２章④）	・冬休みの過ごし方	
1					・取り組もう！ボランティア活動（５章③）	
2	・スキー教室	・けがの予防（保健）				・わたしのボランティア体験
3	・故郷復興プロジェクト	・わたしたちの生活と環境（社会）地震と津波のメカニズムと災害（３章②）		・防災知識をチェックしよう（６章①） ・仙台の自然災害年表・復興年表（６章③）	・春休みの過ごし方	

下線：仙台版防災教育副読本活用

仙台版防災教育　研究推進取組発表校　資料

仙台市立秋保中学校　第２学年

１　学校・地域の実態について

・仙台市の西部にあり，周囲が丘陵に囲まれた盆地状の地形に位置する。東日本大震災では，地盤が強固なためか建築物の倒壊などはなく，比較的軽微な被害の地域であった。
・少子高齢化が進んでおり，地域の行事などでも中学生を頼りにしていることが多い。また，中学生自身も地域の期待を理解し，地域社会のために貢献しようとする意識が高い。

２　平成２８年度　仙台版防災教育で目指すべき児童生徒の姿

・「自らの身を守り，乗り切る力」の育成
・「知識を備え，行動する力」の育成
・「地域の安全に貢献する心」の育成
・「安全な社会に立て直す力」の育成
・「安全安心な社会づくりに貢献する心」の育成

３　目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント

地域と連携して，人とのつながりを大切にする防災教育

４　年間指導計画に基づいて実践した結果，児童生徒はどのように変容したか

・生徒の実態に合わせ，各教科との連携を図った指導を通して，自分の命は自分で守ることや日頃の心構えや事前の防災学習の大切さについて理解を深めることができた。
・地域の一員として，災害時には中学生としてできることをしようとする姿勢が育ってきた。

＜　年間指導計画に基づいた実践の具体　＞

１　野外活動（被災地訪問）・・・（年間指導計画　５月）

南三陸町・気仙沼市で実施。気仙沼市内見学やリアスアーク美術館の学芸員の方の話や，語り部さんとの交流会を通して，当時の実情や復興の様子について学ぶ。最後に，お世話をしていただいた方へのお礼の意味を込めて「復興ソング　仲間とともに」を歌った。逆に感謝の言葉をいただき，自分たちも沿岸部の方々の力になれるということを実感できた。

〈語り部さんとの交流会〉

２　地域防災訓練・・・（年間指導計画　６月）

各学年（避難所運営班，名簿班，パトロール班，炊き出し班，救護班）に分かれ，地域の方々とともに活動する。災害発生時に地域の一員として活動できる生徒を育てることを目的として，町内会で行う防災訓練に参加。最後に，地域の方々と一緒に炊き出しや非常食をとりながら，活動の振り返り行った。

〈地域の方々と各班に分かれて活動〉

３　避難訓練・・・（年間指導計画　１０月）

火災を想定して実施。生徒には，実施日時を明示せずに行った。ただし，事前に防災副読本を活用したり，火災発生時の行動について，シミュレーションする時間を設けた。当日は，３校時後の休み時間に実施した。次の授業の準備のため移動中の生徒やトイレにいた生徒など様々だったが，放送の指示をよく聞き，各自判断しながら大きな混乱もなく避難することができた。避難訓練後には，改めて自分の判断や取った行動，また，選んだ避難ルートなどが最も正しい選択だったのかについて振り返る場を設けた。

〈消防署の方からの講話〉

秋保中　学校

第２学年　（　防災教育　）年間指導計画

防災対応力の構成要素		知識		技能		態度	
	学習内容	防災や災害に関する周辺的・基礎的な内容		防災や災害に関する直接的な内容		防災や災害に関する間接的な内容	
	教科・領域／関連行事等	教科	総合		特活		道徳
4	交通安全教室 （自転車通学等） 故郷復興プロジェクト	保体「集団訓練」	交通安全教室 （通学路の安全）				
5	野外活動		野外活動 （被災地訪問）	野外活動 （被災地訪問）	野外活動 （被災地訪問）		「生命の尊重」
6	地域防災訓練 中総体 １学期中間考査	「地震に伴う災害」 （防災副読本 3-3）		地域防災訓練 「地域の一員として」（防災副読本 5-3）		地域防災訓練 「助け合うってすばらしい」 （防災副読本 2-3）	
7	合同合唱コンクール プチボラ活動 そば打ち学習					プチボラ活動	「社会への奉仕」 「はじまり」 （防災副読本 5-2）
8	実力テスト マナー講座	技術「情報モラル」					
9	職場体験学習 １学期期末考査		職場での安全確保	移動時の危機管理			「勤労の精神」
10	避難訓練（火災想定） 体育祭	保体「体育祭練習・集団訓練」	避難訓練 （火災想定）	避難訓練 （火災想定）		避難訓練 （火災想定）	
11	科学館学習 ２学期中間考査						「郷土愛」
12	中学校間交流 （職場体験学習発表会）	保体「心肺蘇生とＡＥＤ」（防災副読本 4-4）		移動時の危機管理			
1	実力テスト 新入生ガイダンス			校外での災害対策			
2	２学期期末考査	理科「日本の天気の特徴と災害」					
3	予餞式 故郷復興プロジェクト 卒業式				「がんばれ日本！世界は日本とともにある」 （防災副読本 5-5）		「生きることの大切さ」

仙台市立川前小学校　第６学年

１　学校・地域の実態について

純農村地帯から団地住民（９割）を主体とする地域へと変化している地区である。学年部毎に校舎が分かれていることと，校舎増築に伴う避難経路の変更のため，災害の一時避難に対する意識をしっかり持たせる必要がある。学区が広く，徒歩で１時間ほどかかる児童やバス通学の児童がいるため，通学途中の「防災」も意識させたい。

２　平成２８年度　仙台版防災教育で目指すべき児童生徒の姿

（自助）災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け，非常時に冷静に判断し，臨機応変に自らの安全を確保できる児童

（共助）非常時に進んで他の人や地域の力となれる児童

３　目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント（キーワードで）

中学校や地域と連携した防災教育

居住地域を基にしたグループ編成による活動

４　年間指導計画に基づいて実践した結果，児童生徒はどのように変容したか

・災害時に起こる様々な危険について知り，適切な避難行動ができるようなってきている。

・縦割り活動や集団下校訓練では，居住地域毎に編成したグループでの活動を実施したので，児童は地域とのつながりを感じている。

・最寄りのいっとき避難場所を知ることで，在宅時や登下校中に災害が発生した時の避難の仕方について知ることができた。

＜　年間指導計画に基づいた実践の具体　＞

１　集団下校訓練（５月）

今年度は，町内毎に集団下校グループを編成して実施した。児童会活動の縦割り活動グループ（年間８回実施）と同じ班編制にしたため，登下校時等で普段から一緒になることが多く，集合や避難も早くできるようになってきた。

２　避難訓練（地震・火災・業間・引き渡し・不審者対応）（６月～１２月）

校舎増築・校庭整地のため，避難経路を何度か修正し，安全に避難できるように実施した。訓練の時刻を知らせなかったり，集合場所を変更したりすることで，より緊張感を持って取り組めた。

３　小中合同防災訓練（９月）

地域にあるいっとき避難場所を周知させるため，大沢中学校と大沢小学校，地域と連携して実施した。児童は，中学校と小学校が指定避難所であることは知っているが，在宅時や登校時に災害が発生した場合はどのように行動すれば良いか知らない児童がほとんどであったため，自宅近くのいっとき避難場所に集合することが大切であることを知る貴重な訓練となった。当日は，中学生が地域のリーダーとなり，いっとき避難場所の確認カードへの記入や誘導を率先して行った。地域の方には計画から参加していただき，当日は避難の様子を見守る形で参加していただいた。午後からは６年生が中学校を会場にした災害に備える「そなえゲーム」に取り組み，普段の準備と心構えが大切だということを学んだ。

仙台市立川前小学校

第６学年　　防災教育年間指導計画

○高学年部の目標

・日常生活の様々な場面で発生する災害の危険を理解し,安全な行動ができるようにすると共に,他の人々の安全にも気を配ることができる。

防災対応力の構成要素…【知識】防災や災害に関する周辺的・基礎的な内容
【技能】防災や災害に関する直接的な内容
【態度】防災や災害に関する間接的な内容

学期	学校行事	教科・領域	道徳 自助 1-(2)希望・勇気・不撓不屈 共助 4-(4)勤労奉仕 2-(2)思いやり	副読本	復興プロジェクト	地域との関わり
I II	・集団下校訓練【知識】【技能】５月 運動会 川前ソーラン ５月 ・避難訓練【技能】６月 ・引渡し訓練【技能】７月 ・小中合同防災訓練 ・避難訓練 11月 学習発表会 合唱・合奏【技能】11月	物の燃え方と空気 (理科)【知識】 ４月 着衣水泳 (体育)【知識】【技能】 ９月 変わり続ける大地　(理科)【知識】10月 未来に生かす自然のエネルギー (国語)【知識】 11月 震災復興の願いを実現する政治 (社会)【知識】 12月 共に生きる生活 (家庭)【知識】 １月 世界の未来と日本のやくわり (社会)【知識】 ２月	○うちら“ネコの手”ボランティア (道徳)【態度】 勤労の意義を知り,進んで人のためになる仕事をしようとする心情を育てる。 ５月 4-(4)勤労社会への奉仕 ○心をつなぐ音色 (道徳)【態度】 目標を立て,希望や夢に向かってあきらめずに努力しようとする心情を育てる。 ６月1-(2)希望・勇気 ○夢 (道徳)【態度】 より高い目標に向かってくじけないで努力しようとする態度を養う。 12月1-(2)不撓不屈 ○心に通じた「どうぞ」の一言 (道徳)【態度】 相手の立場に立って思いやりの心を持ち,親切にしようとする心情を育てる。 ３月 2-(2)思いやり・親切　勤労・奉仕	1章3　その向こうに【態度】P8-9 ○ねらい　４月　【道徳】 自分で判断・行動し,みんなで助けあって復興を目指そうとする態度を養う。 4-(3)社会的役割の自覚と責任 4章4　家族防災会議を開こう【態度】P36-37 ○ねらい　６月　【学校行事】 日ごろから災害時の対応や連絡方法を家族で話し合っておくことで,防災意識を高める 4章5　チャレンジ防災モニター【態度】P38-39 ○ねらい　７月【総合】 地域コミュニティでの地域防災で取り組みを知り,自分たちの地域の防災について見つめ,考えることができる。 4章9　地震を乗り越えようとした先人の知恵【知識】P.46-47 ○ねらい　９月　【総合】 歴史的な遺産や地名などから,地震を乗り越えようとした先人の知恵や願いに気づかせる。 2章3　未来へつなぐ【態度】P14-15 ○ねらい　１２月　【総合】 災害に強いまちづくりとはどんなものかを先進事例を参考にしながら学ばせ,自分なりのまちづくりのプランを考える。 5章2　人々をつなげる活動【知識】P50-51 ○ねらい　１月　【社会】 政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを理解し,様々な公的機関が,被災した人々への復興の支援を行うためにどのような取り組みを行っているかについて考える。 5章1　つながる？世界の国々と？【態度】P48-49 ○ねらい　２月　【社会】 東日本大震災の時に受けた海外からの支援を知ることで,よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培う。 6章1　防災知識をチェックしよう 6章3　仙台の災害年表・復興年表 【知識】【技能】P58-63　３月 ○ねらい　【学級活動】 一年間に学んだ副読本の内容について知識の確認を行い,学びを着実にするとともに,復興への歩みを確かめ,防災についてさらに学び続けていこうとする意欲を持つ。	○復興への思いを込めて 七夕飾り制作 仙台市震災復興に向けて心を一つにし,将来の仙台を担っていく意識の醸成を図る。 ７月 ○復興サミット 市内各小学校の取組を知り,自分たちの学校の実践に生かす。 11月 ○復興プロジェクトデー 地域の方や保護者と積極的に関わり,地域と進んで関わろうする意識を醸成する。 11月	・安全教室 ・防犯・子どもを守ろうデー ・やしおまつり（児童会） ・防犯子どもを守ろうデー ・小中合同防災訓練

仙台市立大沢小学校

1　学校・地域の実態について

保護者は，学校に協力的で，地域合同防災訓練・防災授業参観にも積極的に参加している。東日本大震災時における大沢地区の被害は小さかった。
地域住民も学校に対して協力的である。東日本大震災時には，体育館が一部損壊したため，体育館を避難所として開放しなかった。そこで，平成２５年度から実施している地域合同防災訓練の中で，備蓄倉庫の確認などを行って地域住民に対して災害備蓄品の内容や使用法の等の周知を図ってきた。平成２７年の「9.11」で浸水した地域もあり，防災意識が高まっているように感じられる。

2　平成２８年度　仙台版防災教育で目指すべき児童生徒の姿

【自助】　災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け，非常時に冷静に判断し，臨機応変に自らの安全を確保できる児童

【共助】　非常時に進んで他の人や地域の力となれる児童

3　目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント

地域や家庭，中学校と連携して進める防災学習

4　年間指導計画に基づいて実践した結果，児童生徒はどのように変容したか

毎年，合同防災訓練を経験することで,児童の防災に関する知識・技能が高まってきた。全校一斉の防災授業参観，月１回の防災授業日の設定により，親子で防災について話す機会が多くなったことも，防災意識の向上につながっている。地域の方からは，「元気よく挨拶をしてくれる子供が多くて気持ちがよい」という言葉をいただくことも多くなり，地域と児童がかかわりあう素地ができつつある。
今年度，小中連携の一環として防災訓練を行ったことも，地域とのつながりを密にする機会になったように感じる。

＜　年間指導計画に基づいた実践の具体　＞

1　小中学校連携防災訓練（年間指導計画９月）

今年度，『いっとき避難場所』『がんばる避難施設』などを経由して登校する訓練を行った。

初めてのことだったので，児童や保護者に『いっとき避難場所』『がんばる避難施設』の存在を理解してもらうこと，地域の方々や中学生と顔見知りになって災害時に協力できる素地を作ること等を目的とした。

2　地域合同防災訓練（年間指導計画１０月）

本校での地域合同防災訓練は，本年度で４回めを迎える。

今年度は，防災カルタ（低学年），水消火・濃煙体験（中学年），応急処置講習と体験（高学年）を行った。

合同防災訓練と同日に，前項で防災関連の授業参観も行っている。

※　右の写真は，中学年の水消火訓練（上），２年生の授業参観の様子（下）である。

６年　仙台版防災教育年間指導計画（各教科等との関連）

◇防災教育の目標：　自ら命を守りぬくために主体的に行動できる児童を育成する。

高学年の目標	【自助】 災害発生時には，危険を予測し，自らの命を守り抜くために主体的に行動できるようにする。 【共助】 災害発生後には，家族や友達，周囲の人々と助け合うとともに，ボランティア活動に進んで参加できるようにする。

月	防災教育関連行事	各教科等との関連				
		教　科	道　徳	特　活	総　合	自分づくり
4	・避難訓練（避難経路確認） ・交通安全教室	○体育 ・集団行動【技態】 ★地震のメカニズムを知ろう【理科】【知態】 ★津波のメカニズムと災害【理科】【知態】	・命の重さは皆同じ〔生命の尊重〕【態】 ★その向こうに(1章③)【態】	・1年生を迎える会【態】 ・避難経路確認【知態】 ・交通安全教室事前事後指導【知態】 ・登下校の安全【知態】 ・避難経路の確認【知態】 ・非常時下校体制の確認【知態】		
5	・(家庭訪問) ・不審者対応訓練	★災害時の情報手段（社会）【知態】	・小さい子からもらった幸せ〔ボランティア活動をして〕【態】	・不審者対応訓練事前事後指導【知態】 ・集団下校のための縦割活動【態】 ★大きな災害と人間の心の動き(3章⑤)	○わがまち仙台（人・社会・歴史） ・福島調べ【知態】	
6	・修学旅行	○外国語 ・I can swim【態】		・避難訓練事前事後指導【知態】★家族防災会議を開こう(4章④)		後ろ向きの考え方の乗り越え方【うごく力】
7		○体育 ・水泳		・夏休みの生活【知態】 ・復興サミット【知態】	★チャレンジ！子ども防災モニター(4章⑤)【知技態】	
8	(地域行事への参加) ・防災学習会（一部地区）		・4（7）郷土愛・愛国心【態】		○わがまち仙台（人・社会・歴史）【知態】 ・夏休みの自己調査【態】	
9	・小中学校連携防災訓練	○保健 ・病気の予防【知技態】 ★いろいろな自然災害【理科】【知態】	・車いすの経験から〔人への思いやり〕【態】 ・うちら猫の手ボランティア【態】 ・3(2)自然愛・環境保全【態】	・通学路で地震が起きたら【知態】 ・陸上記録会【態】	★地震を乗りこえようとした先人の知恵(4章⑨)【知態】	
10	・地域合同防災訓練 ・防災授業公開（全学級） ・避難訓練（地震） ・緊急時引き渡し訓練	○理科 ・大地のつくりと変化【態】			・避難訓練事前事後指導【知態】 ★防災訓練に参加しよう【知態】	
11	・復興プロジェクト ・避難訓練（火災）	○家庭科 ・エコバッグを作ろう【知技】	・3（1）生命尊重【態】	・復興プロジェクト【態】 ★立ち上がればぼくらの復興プロジェクト ・避難訓練事前事後指導【知態】		
12		○社会 ・私たちの願いを実現する政治【知態】		★災害が起きたら【知態】 ・さむいきせつには【知態】 ・冬休みの生活【知態】	○わがまち仙台（人・社会・歴史） ・「仙台調べ」【知態】 ○自分を見つめて ・卒業文集作り【知態】 ★未来へつなぐ(2章③)【知態】	
1			・夜空一光の旅〔敬けん〕【態】 ・東京大空襲の中で〔生命の尊重〕【態】 ・２（５）尊敬・感謝【態】			
2		★人々をつなげる活動（社会）【知態】			○わがまち仙台（人・社会・歴史） ・発表の準備と発表会【知態】 ○自分を見つめて ・卒業プロジェクト実施【知技態】	気持ちの健康診断【みつめる力】
3	・国連防災世界会議(H27.3)	★つながる世界の国々（社会）【知態】	・新しい日本に〔日本人として〕【知態】	★防災知識をチェックしよう(6章①) ★仙台の自然災害年表・復興年表(6章③) ・ボランティアさんに,感謝の気持ちを表そう【態】 ・6年生を送る会【態】 ・春休みの生活【知態】		

仙台市立大沢中学校　第１学年

１　学校・地域の実態について

本中学校区は，青葉区西部の自然豊かな丘陵地に立地し，学区が広く，自転車やバスで通学をする生徒も多い。そのため，登下校時に災害に遭った場合の対策が本校の１つの課題である。

２　平成２８年度　仙台版防災教育で目指すべき児童生徒の姿

・学校と地域が連携し，生徒と地域住民の繋がりを深めて，共助の意識をはぐくむ。
・地域にあるいっとき避難場所の存在を知り，学校だけではなく，地域の防災拠点について確認する。

３　目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント（キーワードで）

・地域（小中，地域住民）と連携して進める防災学習。

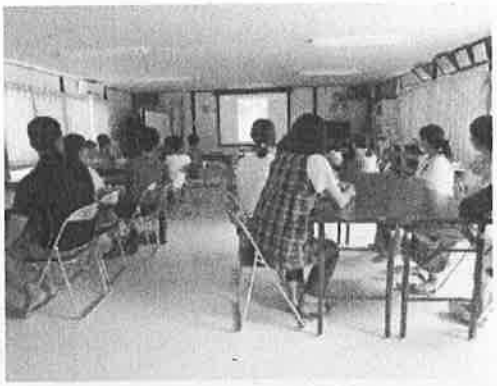
４　年間指導計画に基づいて実践した結果，児童生徒はどのように変容したか

・生徒会の目標の１つに「地域に愛される学校」というものがあり，地域防災訓練も相まって地域への関心が高まった。
・災害時に中学生が地域の中で大切な役割を担っていることを感じた生徒が増えた。
・地域の避難所について，全員の生徒が理解することができた。

＜　年間指導計画に基づいた実践の具体　＞

１　地域の避難場所調査（年間指導計画８月）

９月の小中学校連携防災訓練に向けて，夏休みの宿題として，自宅近くの「いっとき避難場所」と「がんばる避難施設」の場所を調べる課題を出した。予備調査では，地域の避難施設を理解していた生徒は，５名ほどだった。また，昨年度の台風で被害を受けた学区内の２地区では，町内会主催の防災学習会が開催され，非常時の避難場所やとるべき正しい行動などについて児童生徒にお話いただいた。



↑防災学習会の様子

２　小中学校連携防災訓練（年間指導計画９月）

８月の地域の避難場所の調査や防災学習会を生かして，大沢小学校，川前小学校，町内会と連携した防災訓練を行った。

登校の際に自宅の最寄りのいっとき避難場所を通過して，中学生が配付する防災訓練カードを地域の方が見守る中で児童生徒があいさつを交わしながら受け取るというものである。

成果は，地域の「いっとき避難場所」を確認できたことだけではなく，地域住民と児童生徒がお互いに顔を合わせたことで連携を深めるという意味でもよい機会となった。

↑防災訓練カードを配付する様子

仙台市立大沢中学校防災教育年間指導計画

第1学年

防災対応力の構成要素		知　識		技　能		態　度	
学習内容		防災や災害に関する周辺的・基礎的な内容		防災や災害に関する直接的な内容		防災や災害に関する間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教　科	総　合		特　活		道　徳
4	・安全な登下校指導と通学路の確認				・避難経路の確認 ・非常時下校体制の確認		・「感謝の気持ち」1－(3)
5	・校外学習	・「応急処置の方法」(保体)	☆絆を力に一歩ずつ(2章①)		・校外学習での非常時の対応の確認		・郷土愛・先人への感謝4－(8)
6	・中総体 ・避難訓練	・「製図」(技・家) ・「衣生活・住生活と自立」(技・家)	保護者への引き渡し場所等の確認をする。		・避難訓練(地震・集団行動) ・引き渡し訓練 ☆自分の身は自分で守る(4章②)		・「みんなのために」4－(7)
7	・合唱コンクール ・夏季休業中の安全指導	・「情報を集め、わかりやすく説明する」(国語)	保護者と一緒に地域のいっとき避難場所やがんばる避難施設を調べる。			☆中学生の声助け合うってすばらしい(2章③)	「よりよい社会をめざして」4－(2)
8	・夏祭りなど地域行事(ソーラン隊)				・地域の避難所を確認する(夏休み課題)	・地域行事への参加	
9	・沢中祭 ・小中学校連携防災訓練		小中学校と地域が連携し、学校と地域で子どもたちを見守る体制を作る。地域のいっとき避難場所やがんばる避難施設の確認を行う。		・避難訓練(地震・集団行動) ・小中学校連携防災訓練(地域の避難所に立ち寄って登校する) ・濃煙体験，通報訓練，消火訓練		・「家族愛」4－(6)　・「やりぬく心」1－(2)
10	・地域合同防災訓練 ・体育祭	☆家庭でできる災害への備え(4章③:体育)				・地域行事への参加	・「命を見つめ命を支える」3－(1)　・「明るい家庭」4－(6)
11	・復興プロジェクト	・「平面図形～地震の震源地はどこだろう」(数学)					☆はじまり(5章②)
12	・教育相談						・3-(2)「自然愛・畏敬の念」
1		・地震と火山と地層(理科) ☆知っておきたい心肺蘇生の方法とAED(4章④:体育) ・心身の機能の発達と心の健康(体育)					
2	・予餞会	☆心の健康を守るために(4章⑤:体育)	・野外活動事前調査				
3			・野外活動事前調査		☆防災知識をチェックしよう(6章①)	☆仙台の自然災害年表・復興年表(6章③)	・3(1)生命尊重

☆ 副読本活用

仙台版防災教育　研究推進取組発表校　資料

仙台市立上杉山通小学校　第１学年

１　学校・地域の実態について

・住宅が密集し，交通量が多い都市部に学校があり，災害発生時には多様な対応が求められる。
・児童数が多く，避難に時間がかかる。また，新校舎が完成したため，避難経路の確認等が必要である。
・防災に関して，地域・中学校・家庭との連携を更に深めていく必要がある。

２　平成２８年度　仙台版防災教育で目指すべき児童生徒の姿

・災害時に自ら考え判断し，行動できる児童。

３　目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント　（キーワードで）

・授業実践を通して児童に自助・共助の力を育む防災教育。

４　年間指導計画に基づいて実践した結果，児童生徒はどのように変容したか

・地震が起きたとき，どんな場所に気を付けたらよいか考えて安全に行動できるようになった。
・地震に備えて家でどんなことをしておけばよいか知るとともに，災害時の待ち合わせ場所など防災について家族と話をするようになった。

＜　年間指導計画に基づいた実践の具体　＞

１　大きなじしんから「じぶんのいのち」をまもろう（年間指導計画７月）

はじめに東日本大震災の記憶があまりない１年生の児童に写真を使ってその怖さを知らせた。次に，児童に「地震だんごむし体操」を教え，それを参考に緊急時の身の守り方について考えさせた。その後，学校の様々な場所で地震が起きた時に身を守る方法について，行動化しながら全体で確認するとともに，それをプリント（防災ミニブック）にまとめて携帯できるようにした。プリントは，家庭に持ち帰って学校以外での行動について考えるきっかけとしたり，避難訓練の振り返りなど緊急時の行動について考える際に活用したりした。

２　家のまわり学校のまわり（年間指導計画７月）

４月には学級活動や集団下校を通して，交通面での危険と通学路の安全な歩き方について指導した。また，「大きなじしんから「じぶんのいのち」をまもろう」の学習を受け，自動販売機やガラスなど通学路や家のまわりにあるにある危険とそれを回避するための行動について確認した。また，そういった意識が児童に定着するよう，校外に出かけた際には，危険箇所やそれを回避するための行動について復習するようにした。

３　動物たちのいのち（年間指導計画９月）

校外学習に行った後に，「動物たちのいのち」を題材にした道徳の授業を行った。校外学習で児童は八木山動物園に出掛けて元気に活動しているカバの様子を見た。学校に帰ってから副読本の資料を読み，震災の時にそのカバが命の危険にさらされたことを知った。その命は，日本中の動物園から送られた多くの支援物資，自主的に集まったボランティアの協力，そして飼育員たちの献身的な努力によって救われたことを学び，児童は生命の大切さに気付いていった。

上杉山通小　学校

第　1　学年　　防災教育年間指導計画

目指す児童の姿（低学年）
・災害に関心をもち，災害時の安全な行動について理解する。【知識】
・災害により引き起こされる危険を感じ，大人の指示に従うなどして適切な行動をとることができる。【技能】
・災害時には，自分で危険を回避し，大人と連絡をとることができるようになる。【態度】

防災対応力の構成要素		知　識		技　能		態　度	
学習内容		防災や災害に関する周辺的・基礎的な内容		防災や災害に関する直接的な内容		防災や災害に関する間接的な内容	
月	教科・領域 / 関連行事等	教　科	総　合		特　活		道　徳
4	・避難訓練（避難経路確認） ・交通安全教室				・登下校の安全 ・避難経路の確認 ・非常時下校体制の確認		
5	・集団下校訓練				・集団下校のための縦割活動 ☆あの日 3.11（1章①）		☆家族との再会（2章①）
6	・復興プロジェクト（折り鶴） ・避難訓練（地震）	・学校をたんけんしよう（生活） ・みんなで通学路をあるこう			・避難訓練事前事後指導 ・☆ひなんの仕方を考えよう（4章③）		
7	・引き渡し訓練 ・復興プロジェクト	・みんなで通学路をあるこう ☆家のまわり学校のまわり（4章①：生活）			・大きなじしんから「じぶんのいのち」をまもろう	・夏休みの生活 ※わたしたちのあんぜん・おまもりてちょう活用	
8	（地域行事への参加）					・地域行事への参加	
9	・校外学習（八木山動物公園）						☆動物たちのいのち（5章④）
10	・地域合同防災訓練				☆ぼうさいリュックを用いしよう（4章⑥）		
11	・復興プロジェクト ・避難訓練（火災）				・避難訓練事前事後指導	☆手をつないで（5章③）	
12						・冬休みの生活 ※わたしたちのあんぜん・おまもりてちょう活用	
1		ゲストティーチャーから学ぶ					
2					☆ひなんじょでのくらし（2章①）		
3	・国連防災世界会議（H27.3）				☆ぼうさい知しきをチェックしよう（6章①） ☆仙台のさいがい年ぴょう・ふっこう年ぴょう（6章③）		

☆ 副読本活用

仙台版防災教育　研究推進取組発表校　資料

仙台市立上杉山中学校　第１学年

１　学校・地域の実態について

仙台市中心部に位置し，高層マンションが建ち並び，転勤族の家庭も多い。古くから居住している方々を中心に活発な町内会活動が行われている。仙台市の地域防災計画に基づき協議を重ね「上杉地区　避難所開設マニュアル」が完成した。今後，地域と連携した防災活動を推進していく計画である。

２　平成２８年度　仙台版防災教育で目指すべき児童生徒の姿

○災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け，非常時に冷静に判断し，臨機応変に自らの安全を確保できる生徒の育成。
○ボランティア活動を通して災害時に進んで他の人や地域の力となれる生徒の育成。

３　目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント　（キーワードで）

○生徒の地区別グループを組織化し，自主的に安全確保のできる生徒を育てる。
○ＪＲＣ活動をはじめとしたボランティア活動の充実により，共助の精神を育てる。

４　年間指導計画に基づいて実践した結果，児童生徒はどのように変容したか

○自然災害の予兆に敏感に意識を働かせ，このような場合はどうしたらよいかを口にする生徒が増えた。
○地域の一員としての自覚を持ち，環境美化への意識を強く持ったり，地域行事などへ参加しようという生徒が増えた。

＜　年間指導計画に基づいた実践の具体　＞

１．「急な大雨や雷から身を守ろう」授業実践

本校は学校のすぐ側に梅田川，学区内及び近郊に地下鉄駅が３駅あるなど，積乱雲の急激な発達によるゲリラ豪雨時に被害が警戒される地域にある。また，本校北側には仙台市の土砂災害危険箇所に指定される斜面があり，本校が指定避難所となっている。積乱雲がもたらす大雨や落雷などの自然災害は，本校生徒が直面する可能性が極めて高いものであると考えられる。これらの自然災害によって生徒が被害を受けることを防ぐためには，天候急変の兆しにいち早く気付き，安全を確保するための適切な対処法について学ぶことが重要であると考え，気象庁編「急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう！」ＤＶＤ利用を活用した授業実践を１学年にて行った。授業の概要は以下のとおりである。

(1)ＤＶＤ視聴後，登場人物の判断や行動についてどこが間違っていたのかを考え，ワークシートに記入する。
(2)生活班でグループを組み，意見を発表し合う。班の代表者が出された意見をまとめ，学級全体に発表する。
(3)解決編を視聴し，積乱雲に伴う自然災害から身を守る方法をまとめ，発表する。
(4)防災教育副読本 P48 を読み，災害心理についての理解を深める。

２．避難訓練時における集団下校訓練の実施

３．生徒会，ＪＲＣ委員会を主体とした，地域清掃の定期的実施

仙台市立上杉山中　　学校

第　1　学年　　（　防災教育　）　年間指導計画

【目標】 災害についての基礎的な知識を知り，学区内の危険箇所を把握し適切に避難できる技能を身に付ける。

防災対応力の構成要素		知識		技能	態度
学習内容		防災や災害に関する周辺的・基礎的な内容		防災や災害に関する直接的な内容	防災や災害に関する間接的な内容
月	教科・領域 関連行事等	教科	総合	特活	道徳
5	校外学習 JRC地域清掃		絆を力に一歩ずつ (2章①)	急な大雨や雷から身を守ろう	
6	■避難訓練 ■集団下校訓練 JRC地域清掃			自分を守る(4章②) 地区避難グループを知る	
7	JRC地域清掃				
9	大樹祭 JRC地域清掃	理科 3.11の地震を科学の目でとらえよう (3章②)			
10	職場訪問 JRC地域清掃		校外活動中の避難行動について		
11	★故郷復興プロジェクト① ◆避難訓練(火事) JRC地域清掃				地域の一員として (5章②)
12	JRC地域清掃	保体 心の健康を守るために (4章⑦)			
2	予餞式 JRC地域清掃				
3	卒業式 ★故郷復興プロジェクト②			防災知識をチェックしよう (6章①) 仙台の自然災害年表・復興年表(6章③)	

仙台版防災教育　研究推進取組発表校　資料

仙台市立沖野東小学校　第３学年

１　学校・地域の実態について

東日本大震災においては道路が損壊し，それに伴い全壊・大規模半壊扱いの住宅が多くあった。国道４号線より東側に位置しているという立地条件であり，津波被害があった六郷地区に隣接しているため，地域住民の災害に対する意識は高い。沖野中学校区災害対策委員会を組織し，各町内会，小中学校が連携して防災教育を推進している。

２　平成２８年度　仙台版防災教育で目指すべき児童生徒の姿

【自助】　災害に対する基礎的な知識や対応力を身に付け，非常時に適切に判断し，自らの安全を確保できる児童を育成する。

【共助】　災害時や災害発生後の生活，復興に向けての取組において，互いに協力し合い進んで行動できる児童を育成する。

３　目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント

連携（小中学校・地域・行政）

９年間で育む児童生徒像（沖野学園として，義務教育９年間を見通した年間指導計画作成）

４　年間指導計画に基づいて実践した結果，児童生徒はどのように変容したか

中学生や地域の人たちとの関わりを通して，様々な面で地域の方々に支えられていることを実感し，地域に対する意識の向上が見られた。また，関わりを重ねていく中で，上級生や中学生へのあこがれと，自分でできることは自分でという自助の心が膨らんできた。

＜　年間指導計画に基づいた実践の具体　＞

１　９年間で育む児童生徒像　【地域総合防災訓練（１０月２２日実施）】

沖野中学校区総合防災訓練を沖野中，沖野小，沖野東小，各町内会，関係機関と一体となって実施した。今年度は，昨年度の反省を踏まえ，参加者の体験と小中学生と地域の方々との連携を重視した訓練にした。体験は５つのコース（A 簡易トイレ作成・片付け，濃煙体験　B 濃煙体験，トイレ用水確保訓練　C 応急処置・AED 訓練，発電機作動訓練・備蓄室見学　D 非常食準備　E 消火体験，応急処置・AED 訓練）を設定して，５・６年生と中学生，地域の参加者が一緒に訓練した。１～４年生は学年ごとに濃煙体験や消火体験，他の体験の見学，DVD を視聴しての防災学習をした。訓練によっては，小中学生と地域の方々が一緒になって体験し，関わり合う場面が数多く見られた。「地域の人や中学生と一緒に活動できてよかった。」「中学生がうまくリードしてくれて，ぼくも中学生になったら，あんな風になりたいと思った。」「中学生はやさしく小学生を引っ張ってくれて，大人の人たちはここはどうしたらよいか教えてくれて頼りになった。」等の感想があった。参加者数は沖野東小で４８５名，全体では１７３８名になった。

２　地域・小中連携　【小中連携あいさつ運動（７月，１０月それぞれ１週間程度実施）等】

たてわりの兄弟学年と中学生，PTA と一緒に実施し，登校してくる児童を元気な挨拶で迎えた。年１回だけでなく２回あることで，他学年の児童や中学生との関わりをより深め，心のつながりを感じることができたようだ。

仙台市立沖野東小学校　　3年生防災教育年間指導計画

☆副読本活用　　第3学年

防災対応力の構成要素		知　識		技　能	態　度	
学習内容		防災や災害に関する周辺的・基礎的な内容		防災や災害に関する直接的な内容	防災や災害に関する間接的な内容	
月	教科・領域 / 関連行事等	教　科	総　合	特　活		道　徳
4	たてわり顔合わせ	・学校のまわり（社会） 地域への関心を高める		・登下校の安全　・避難経路の確認 ・非常時下校体制の確認		☆たった一つのもの（1章③）
5	・復興プロジェクト ・集団下校訓練 ・（家庭訪問）			☆ひなんのし方を考えよう（4章③）		・4（5）郷土愛
6	・避難訓練（地震） ・引き渡し訓練	・市の様子（社会） 仙台市の地形の特徴，西部と東部の違い。		・避難訓練事前事後指導 ☆地しんについて知ろう（3章①）	・老人クラブとの花植え 地域との交流	
7	・小中連携あいさつ運動　・交通安全教室	中学生・地域との交流			・夏休みの生活	☆大切なこと（2章⑤）
8	（地域行事への参加） ・校外学習	・店ではたらく人（社会）			・地域行事への参加 地域との交流	
9	・避難訓練（不審者） ・遠足	☆雨・風・かみなりについて知ろう（3章③：理科）	校外学習　工場の防災への取り組み。仙台空港・千年希望の丘　大震災を知る	☆自分できめる（4章④）		
10	・校外学習 ・中学校区合同防災訓練	・工場の仕事（社会） ・大震災と復興について知ろう		☆家族ぼうさい会ぎをひらこう（4章⑤）		
11	・小中連携あいさつ運動 ・復興プロジェクト ・収穫祭	中学生・地域との交流を深める		☆ふるさとを元気に　自分たちにできること（2	・老人クラブとの花植え 地域との交流を深	・4（3）家族愛
12	・避難訓練（火災） ・集団下校訓練	☆けがをしたときは（4章⑧：体育）		・避難訓練事前事後指導	・冬休みの生活	
1			☆たくさんのおうえん（5章①）			
2	・校外学習				☆つたえよう わたしたちのことばで（5章⑥）	
3				☆ぼうさい知しきをチェックしよう（6章①）　☆仙台のさいがい年ぴょう・ふっこう年ぴょう（6章③）		

仙台市立沖野小学校　第４学年

１　学校，地域の実態把握について（特に防災教育を進めていく上での実態）

東日本大震災においては道路が破損し，それに伴い全壊・大規模半壊扱いの住宅が多くあった。国道４号線より東側に位置しているという立地条件であり，津波被害があった六郷地区に隣接しているため，地域住民の災害に対する意識は高い。沖野中学校区災害対策委員会を組織し，各町内会，小中が連携して防災教育を推進している。

２　平成２８年度　新たな学校防災教育で目指すべき児童生徒の姿

【自助】
自分の地域に関心を持ち，いろいろな災害とその対処法について関連して学び，自らの安全を確保できる児童

【共助】
小中連携や地域交流，異学年交流を通して，人の関わりの大切さに気付き，互いを思いやれる児童

３　目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

・地域（小中学校・地域・行政）
・９年間で育む児童生徒（沖野学園として義務教育９年間を見通した年間指導計画作成）
・異学年交流を通した思いやり防災教育

４　年間指導計画に基づいて実践した結果，児童生徒はどのように変容したか。

異学年交流を通して，今まで自分から友達に声を掛けられなかった児童が下学年の児童に自分から声を掛け，教えてお世話をしている姿が見られた。帰りの会では，「〇〇さんが３年生に優しく教えていました」という発言があった。業間の避難訓練時に，「下学年の児童がブランコをしていたので放送を聞くように声を掛けた」「３年生と一緒に放送を聞いていた」「放送を聞くまで動かないようにしよう」と声を掛ける姿が見られた。学年を越えて他者へ関心を持ち，進んで関わろうとする気持ちが高まった。また，そうした関わる姿を認め合う態度も育むことができた。

中学生と一緒に活動した総合防災訓練や小中連携挨拶運動などの地域・小中連携した防災教育を通して地域への関心を高め，自らの安全を確保するための災害に対する対処法だけでなく，互いに助け合うこと，人の役に立ちたいという思いを育むことができた。

〈　年間指導計画に基づいた実践の具体　〉

１　異学年交流（年間指導計画　７月～８月）

年間を通して，１年生と６年生，２年生と５年生，３年生と４年生で異学年交流を進めた。主な内容は，復興プロジェクト（折り鶴作成）などの創作的活動や体育的活動，奉仕作業である。異学年の仲間と仲良く協力して活動できるようにした。自分の学年とは違い，相手の学年に合わせて声の掛け方や行動の仕方に気を付けて関わる姿が見られた。活動を通して異学年と関わることの良さや楽しさを感じ，人の関わりを大切にする態度を育むことができた。

２　小中連携挨拶運動(６月，１１月)

挨拶運動は沖野中学校と沖野東小学校の３校合同で開催した。沖野中学校の生徒が部活動毎に沖野小学校と沖野東小学校に赴き，業前の時間を利用して小学生と一緒に挨拶運動を展開した。６月，１１月の年２回，１回につき１０日間連続して実施した。PTA や地域住民とも協働で行い，各校の校門に小学生から大人まで整列して一緒に取り組んだ。

３　地域総合防災訓練（１０月）

総合防災訓練では，１０町内会，民生委員，消防，婦人防火クラブ，行政，沖野中，沖野小，沖野東小等が連携し，災害対策委員会を組織し，３校を会場に同日，同時間帯に訓練を実施した。３校の児童生徒と地域住民が各会場へ避難し，体験的な訓練活動を展開した。小学５，６年生は中学生及び，避難してきた地域住民とグループを編成し，炊き出しや簡易トイレ組み立て等災害時に必要とするスキルを身に付ける体験活動を行った。小学４年生までの児童は，防災副読本を活用した防災教育の授業実施や訓練の見学，消火体験や濃煙体験等を行った。小中連携挨拶運動と合わせて，地域住民と児童生徒の関わり合う活動を通して，顔の見える関係を構築し，協働することの良さや地域の絆を考えることができるようになってきた。

仙台市立沖野小学校　防災教育年間指導計画　　第4学年

防災対応力の構成要素		知識		技能	態度
学習内容		防災や災害に関する周辺的・基礎的な内容		防災や災害に関する直接的な内容	防災や災害に関する間接的な内容
月	関連行事＼教科領域	教科	総合	特活	道徳
4	1年生を迎える会 登校指導	【体育】 集団行動			☆取り組もう！ボランティア活動（5章❸）
5	異学年交流 体育朝会 運動会 プール清掃 交通安全教室（中学年）	【社会】 ☆応急手当の方法と救急車の呼び方（4章❼）	「みんなにやさしい町・沖野」 ・私たちの周りの人々，体の不自由な人の暮らしを知る。 ・身の回りのバリアフリーを調べる。		
6	引き渡し訓練 総合防災訓練（区） 避難訓練 かしの実集会	【社会】 ごみのしょりと利用		☆東日本大震災発生（1章❶）	
7	復興プロジェクト 異学年交流 大掃除			【異学年交流】 ・復興プロジェクト（鶴折り）などの創作的活動や体育的活動，奉仕作業を通して異年齢の仲間と仲良くする協力する大切さに気付く。	☆復興へ今を力強く（2章❷）
8	登校指導				
9	クリーンデー プール納会	【国語】メモの取り方をくふうして聞こう	「みんなにやさしい町・沖野」 地域の避難訓練に参加して，地域のためにできることを考える。		☆一番大切なことは（2章❺）
10	地域防災訓練	【社会】 水はどこから		☆災害起きたら（4章❶） 災害から身を守るために（4章❷）	
11	学習発表会 故郷復興プロジェクト 縦割り活動 持久走記録会 避難訓練	【社会】 郷土をひらく		【異学年交流】 中学生や地域の方との挨拶運動を通して，他者と協働して取り組む良さを考える。	
12	避難訓練 大掃除				
1	体育朝会 給食週間			☆震災を乗りこえて（5章❹）	
2	異学年交流		3．11食育 ・給食時に防災食メニューを食べ，食のありがたさや災害時の食について学ぶ。	☆防災知識をチェックしよう（6章❶） 仙台の自然災害年表・復興年表（6章❸）	
3	6年生を送る会 卒業式				

仙台版防災教育　研究推進取組発表校　資料

仙台市立沖野中学校　第３学年

１　学校・地域の実態について

東日本大震災においては道路が破損し，それに伴い全壊・大規模半壊扱いの生徒の住宅が多くあった。国道４号線より東側に位置しているという立地条件であり，津波被害があった六郷地区に隣接しているため，地域住民の災害に対する意識は高い。沖野中学校区災害対策委員会を組織し，各町内会，小中が連携して防災教育を推進している。

２　平成２８年度　仙台版防災教育で目指すべき児童生徒の姿

【自助】自分の住む地域の良さとそこに潜む危険について考え，学校での様々な学びを生かして臨機応変に対応できる力を育成する。

【共助】小中連携や地域防災訓練等を通して地域とのつながりや関わりを大切にして災害時に協働できる態度を育成する。

３　目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント（キーワードで）

連携（小中学校・地域・行政）

９年間で育む児童生徒（沖野学園として，義務教育９年間を見通した年間指導計画作成）

４　年間指導計画に基づいて実践した結果，児童生徒はどのように変容したか

本校は学校行事の度に縦割り活動を多く取り入れている。そのため，上級生が下級生と関わりながら課題解決に向けて協働することに抵抗は少ない。また，半年に１度，部活動単位で小中連携挨拶運動の成果もあり，小学生との交流も定着しつつある。今年度，小学生と大人とグループで活動することにより，地域の一員であること，自分たちの力が必要とされているという自覚を持ち始めている。

＜　年間指導計画に基づいた実践の具体　＞

（１）校内防災訓練（地震想定）（６月実施）

地震発生を想定した防災訓練として，教室から校庭までの避難（１次避難）経路の確認，津波により，校庭から屋上まで（２次避難）の避難経路の確認を毎年行っている。訓練当日，強風のため外での訓練実施が困難であると判断。そのため，１次避難場所を体育館に変更した。避難後，震災を経験した教員２名から生徒へ講話を行い，故郷復興プロジェクト DVD（過去に作成されたもの）を全員で視聴した。その後，教室で各学級担任から２次避難経路の確認を行った。

（２）地域総合防災訓練（１０月実施）

沖野地区における非常事態の発生による人的，物的被害を軽減し，初動体制の確立，地域の災害対応力向上を目指して毎年実施している。沖野中学校生徒，沖野小学校と沖野東小学校の児童，地域住民，若林区役所，消防等の関係諸機関が参加し，３校を会場に同一内容で訓練を行った。避難後，事前に３校防災主任会で割り振られた班で体験活動や防災課題（話し合い活動）に取り組んだ。この班は町内会毎に小学校５年生から中学校３年生までの児童生徒，避難してきた大人で構成されている。中学生がリーダーとなり指示を出し，次の行動の説明等を行った。下級生，大人と協働しながら課題の解決に取り組んだ。

平成28年度　　仙台市立沖野中学校防災教育年間指導計画 第3学年

防災対応力の構成要素		知　識		技　能		態　度	
学習内容		防災や災害に関する周辺的・基礎的な内容		防災や災害に関する直接的な内容		防災や災害に関する間接的な内容	
月	教科・領域 / 関連行事等	教　科	総　合		特　活		道　徳
4	始業式，入学式，対面式，委員会任命式	・集団行動（保体）			・避難方法と経路の確認		
5	校外学習，体験活動，修学旅行，生徒総会，スポーツ交流会	・都市の発展と関東大震災（社会）	・修学旅行時の緊急対応		・連絡網の確認		2-（2）思いやり
6	激励会，市中総体，防災訓練，1学期中間考査	・安全な住まい・災害への備え（家庭）		☆「一人一人が災害に備える」	・中総体時の災害発生への対応確認 ・防災訓練		地震，津波から身を守ること。仙台市の取組も学ぶ。
7	全校集会，県中総体，家庭訪問，教育相談，故郷復興ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ，全校集会				・校外での災害時対応について確認		3-（1）生命の尊重
8	職場体験，全校集会						
9	萩光祭，1学期期末考査，立会演説会，生徒会役員選挙	・住民参加の拡大（社会） ☆仙台市震災復興計画を知ろう（社会）		・防災思考力を高めよう（たく生き）	・萩光祭時の災害発生への対応		3-（3）人間理解と生きる喜び
10	終業式，新人大会，始業式，総合防災訓練，合唱コンクール，委員会任命式		☆「情報に振り回されないために」 ・総合防災訓練				4-（4）集団の意義・集団生活の向上
11	教育相談，生徒総会，2学期中間考査，故郷復興ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ				・校外での災害時対応について確認		
12	教育相談，全校集会						4-（8）郷土愛・先人への尊敬
1	全校集会，私立入試，故郷復興ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ	☆「風水害に備えよう」（理科） ・地球環境問題（社会）				☆「がんばれ日本！世界は日本と共にある」	3-（1）生命の尊重
2	公立前期入試，2学期期末考査	☆「世界で最も自然災害のリスクが高い日本」（理科）					2-（2）思いやり
3	故郷復興ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ，予餞会，公立後期入試，卒業式，修了式，離任式				☆「防災知識をチェックしよう」		

たく生きプログラムを活用して適切な判断ができるよう学習する。

地域の大人，小学生と協力しながら体験活動，話し合い活動を行い，地域一体となって取り組む。

1年間の防災学習を振り返り，自分のできることを再確認する。

☆：防災副読本

仙台市立福室小学校　第５学年

１　学校・地域の実態について

本校は，仙台市の東部に位置し，七北田川の東に広がっている。福室地区は，かつては田園が広がる自然豊かな地域であったが，現在は仙石線と国道４５号が通り，交通の要衝となっている。また，近年住宅も多くなり，マンションも建ち並んでいる。在籍児童数はおよそ６００名の中規模校で，２小１中の学区である。東日本大震災においては，学区の一部が浸水し，学校において避難所運営を行っている。そのため，地域住民の防災に対する意識は高い。しかし，５年が経過し，児童の記憶からは薄れてきていることが懸念される。

２　平成２８年度　仙台版防災教育で目指すべき児童生徒の姿

- 災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け，非常時に冷静に判断し，臨機応変に自らの安全を確保できる児童
- 非常時に進んで他の人や地域の力となれる児童

３　目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント（キーワードで）

発達段階に応じた防災対応力を高める防災学習　～各教科・総合・特活・道徳と関連付けた学習～

４　年間指導計画に基づいて実践した結果，児童生徒はどのように変容したか

- 自然災害はいつ発生するか分からないという意識を強く持つようになり，家庭において災害に対する備えをする児童が増えた。
- 人間の集団心理について学習したことで，普段の授業や学校生活においても主体的に活動に取り組む姿が見られるようになってきた。

＜　年間指導計画に基づいた実践の具体　＞

１　各教科において

理科では，大雨や台風などの自然災害について学習した。その際，関連してその他の自然災害についての理解を深めることを目的として，減災教育の出前授業を実施した。東北大学災害科学国際研究所の保田先生を講師にお迎えし，地震と津波のメカニズムについて教えていただいたり，災害発生時に被害を最小限に抑えるための備えについてグループワークを通して考えたりする活動を行った。災害に関する知識・理解を深めるだけでなく，減災行動や避難行動について具体的に考えることができた。

２　特別活動において

災害対応避難訓練を年三回実施した。６月の訓練では，津波の発生により地域住民が避難してくることを想定し，校舎西側の３・４階の教室に避難した。複数学年が一つの教室に避難する状況となったが，落ち着いて避難行動をとることができた。

３　道徳において

道徳副読本「みんなで考える道徳」（日本標準）において「命を守るための三原則」という資料を扱い，「想定に捉われない」「最善を尽くす」「率先避難者となる」という三つの提言について学習した。その後，独自に作成したプレゼンテーション資料や仙台版防災教育副読本「３．１１から未来へ」を活用し，災害発生時の人間心理について理解を深めさせた。児童は，命を守るために主体的に行動することの大切さを強く感じたようであった。

仙台市立福室小学校

第　5　学年　（　防災教育　）　年間指導計画

防災対応力の構成要素		知　識		技　能		態　度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺的・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教　科	総　合		特　活		道　徳
4	・避難訓練（避難経路確認） ・交通安全教室 ・（戸口訪問）	・国土の地形の特色（社会） ・天気の変化（理科）			・登下校の安全 ・避難経路の確認	☆歩み出す　力強く(1 章②)	
5	・見守り下校訓練 ・（戸口訪問）				・非常時下校体制の確認		
6	・避難訓練（地震・津波） ・引き渡し訓練	・けがの防止（体育） ☆応急手当の方法と救急車の呼び方(4 章⑦:体育)		・野外活動時の災害発生への対応	・避難訓練事前事後指導 ・非常時下校体制の確認 ☆災害時をくらすヒント(4 章⑥)		
7		・できるようになったかな家庭の仕事（家庭）	・福室を探検			・夏休みの生活	☆希望の詩～「ない」～(2 章①)
8						・地域行事への参加	・2(3)友情・信頼
9	・避難訓練（休憩時・地震）	・着衣水泳（体育） ・台風と天気の変化(理科) ☆いろいろな自然災害(3 章③:理科)			・避難訓練事前事後指導		・3(2)自然愛・環境保全
10		・流れる水のはたらき（理科） ☆心と向き合って(4 章⑧:体育)				・秋休みの生活	
11	・避難訓練（火災）				☆立ち上がれ！ぼくらの復興プロジェクト(2 章④) ・避難訓練事前事後指導		・3(1)生命尊重
12		・社会をかえる情報 ・情報を生かすわたしたち(社会) ☆災害時の情報手段(3 章④:社会)	・福室を探検		・非常時下校体制の確認	・冬休みの生活	
1		・わたしたちの生活と森林（社会）					
2		・環境を守るわたしたち（社会）				☆Heroes 2011 Japan(5 章⑤)	
3		・自然災害を防ぐ（社会） ☆津波のメカニズムと災害(3 章②:社会)	・福室の未来を考えよう		☆防災知識をチェックしよう(6 章①) ☆仙台の自然災害年表・復興年表(6 章③)	・春休みの生活	

☆ 副読本活用

仙台市立中野栄小学校　第５学年

１　学校・地域の実態について

中野栄小学校は仙台港が近く，近くにはアウトレットモールや水族館など大型の商業施設がある。震災時には，学区内の国道４５号線付近まで津波が到達していて，商業施設などからも多くの避難者がいた。震災後は中野小学校とともに「二校二校の城」として同じ校舎で学校生活を送った。

校内では津波を想定した避難訓練を行っていて，児童は落ち着いて参加している。校外でも地域防災訓練を実施しているが，地域の方々の参加が多い。

２　平成２８年度　仙台版防災教育で目指すべき児童生徒の姿

・災害などから自分の命を守るための知識を身に付けて，行動しようとする児童
・自分の命，他者の命を大切にし，家族や地域の人々と共に生きようとする児童

３　目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント（キーワードで）

家庭と連携して，自助の知識や行動を身に付けるための防災学習

４　年間指導計画に基づいて実践した結果，児童生徒はどのように変容したか

家族防災会議における親子の話し合いや地域の防災マップ作り，地域総合防災訓練など保護者と児童が防災に興味関心を持ち，地域の防災活動に参加する機会が増えた。

＜　年間指導計画に基づいた実践の具体　＞

・家族で防災についての話し合い

最初に校内で実施した個人の安全マップの裏面に，家族で災害時のルールを話し合う項目を設けた。子供だけで家にいるとき，子供だけで外出しているとき，家族と離れているときに災害が起こったらどこで集合するかなど，様々な想定における避難方法を話し合ってもらった。常に見えるところに貼り，毎年行うことで自助の知識と行動が身に付くと考えられる。

・地域防災マップ作り

引き渡し訓練は，児童と保護者が防災活動に関わる行事なので，この機会を大切にしたいと考えた。まず，下校時に通学路の安全な場所や危険な場所を確認し，それを地図に記入していった。この通学路の防災マップを用いて，後日校内で防災マップ作りの授業を行った。全校児童が縦割りで地区ごとに集まり，意見を出し合いながら防災マップを作成することで，災害が起こったときの安全な登下校や避難の仕方を学ぶことができた。さらに，地域の防災意識を高める活動として，地域－保護者－児童が一緒に地区ごとの防災マップを作成した。初の試みということもあり参加人数は少なかったが，今後も継続して，防災への関心が高まることを期待している。

・中野栄総合防災訓練

宮城県沖を震源とする地震を想定して訓練した。地域の防災担当者を中心に，避難や災害対策の訓練等を行った。同じ地区の人同士顔を合わせることができるとともに，少しずつ児童と保護者が参加できるようになってきた。参加人数や学年に偏りが見られるので，訓練内容の見直しや日程の調整，呼び掛けの工夫などを今後地域と一緒に検討してきたい。

仙台市立中野栄小　学校

第 5 学年　防災教育 年間指導計画

防災対応力の構成要素		知識		技能		態度	
学習内容		防災や災害に関する周辺的・基礎的な内容		防災や災害に関する直接的な内容		防災や災害に関する間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教科	総合		特活		道徳
4	・地区顔合わせ ・通学路の確認 ・集団下校訓練 ・避難経路の確認	「始めてみようクッキング」(家庭科)			「安全な登下校」(学活)	「歩み出す力強く」(副読本)	
5	・運動会(集団行動) ・防犯訓練 ・救急救命講習 (教職員・保護者)	「国土の地形の特色と人々のくらし」(社会)			「交通事故，身の回りの犯罪から身を守る」「野外活動について」(学活)		
6	・引き渡し訓練 ・防災訓練 (地震・津波想定)	「新聞記事を読み比べよう」(国語) 「心の健康」(保健)			「避難訓練への積極的な参加」(副読本) 「家族防災会議をひらこう」(副読本) (チェックシート)		生きることの意味「なぜ，わたしたちは生まれてきたのかな」
7	・防災訓練(業間) ・夏休み前集会	「できるようになったかな　家庭の仕事」(家庭) 「水泳学習」「けがの防止」(体育)	「未来へつなぐ」(副読本)		「夏休みの生活」		気持ちを伝える「顔が表現するもの」
8	夏休み明け集会						
9		「台風と天気の変化」(理科)					自分たちの命は自分で守る「命を守るための三原則」
10	防災訓練 (火災想定)	「流れる水のはたらき」(理科) 「津波のメカニズムと災害」(副読本) 「元気な毎日と食べ物」(家庭)					みんなで意見を出し合って「地球を救おう子ども会議」
11	故郷復興プロジェクトデー						社会のためにできること「ボランティアしてみよう」
12	冬休み前集会	「情報化した社会とわたしたちの生活」(社会) 「災害時の情報手段」(副読本)			「冬休みの生活」		
1	冬休み明け集会	「心と向き合って」(副読本)				「Heroes 2011 Japan」(副読本)	
2		「メディアとわたしたちのかかわりについて考えよう」(国語) 「わたしたちの生活と環境」(社会)		「取り組もう！ボランティア活動」(副読本)	「防災知識をチェックしよう」(副読本)		人々の支え合い「やさしい人たち」
3	故郷復興プロジェクト				「春休みの生活」 「仙台の自然災害年表・復興年表」(副読本)		限りある命「命の時間」

仙台市立中野中学校　第１学年

１　学校・地域の実態について

仙台市の東部にあり，多賀城市との境に位置している。東日本大震災では，校舎が使用できないほどの被害はなかったものの，学区の一部では，津波による浸水被害も受けている。今後も大きな地震の際には，被害が予想されるので津波への対応も整備しておく必要がある。また，災害時の引き渡しや有事の際の連絡手段などについても確立しておく必要がある。

２　平成２８年度　仙台版防災教育で目指すべき児童生徒の姿

・災害に対する正しい知識を身に付ける
・災害時に自らの安全を確保する力を身に付ける
・非常時に自ら進んで他の人の力となろうとする態度を育てる

３　目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント（キーワードで）

ボランティア活動を通して共助の精神を養う防災教育

４　年間指導計画に基づいて実践した結果，児童生徒はどのように変容したか

避難訓練やその事前事後指導を通して，自らの安全を確保する方法を知り，自分の身は自分で守るという意識が高まった。これまでも学校で行われる活動にボランティアとして参加する生徒は多かったが学校だけでなく，地域の活動に参加する生徒が少しずつ増え，地域との関わりが深まった。

＜　年間指導計画に基づいた実践の具体　＞

１　ふれあい交流会（９月実施）

地域の豊齢者を学校に招待し，地域の小学生や中学校の吹奏楽部などがステージ発表をしたり，地域の方とＰＴＡの炊き出し訓練をかねて芋煮をふるまうなど地域の高齢者とのふれあいを通して，生徒の高齢者に対する尊敬の念と思いやりを育てることを目的としている。毎年１０００人を超える地域の方が参加しており，参加した中学生からは「ふれあい交流会のおかげで，少し積極的になれたかなと思います。これからも，お年寄りの方を見つけたら声をかけたり，助けてあげたいです。」という感想もあり，地域の高齢者と交流することで共助の考えを養う機会となっている。

２　ふれあいあいさつ運動（１１月実施）

学区内の中学生と小学生，地域の方々が参加するふれあいあいさつ運動を行っている。学区内の小，中学校や公園など１８か所に分かれて，登校前の時間を利用し，自分たちが住んでいる地区で，地域の大人，先生方とともにあいさつ運動を行い，地域交流を深めることを目的としている。中学校では，生徒会執行部と学年委員，ボランティアの生徒が毎日あいさつ運動をしていることもあり，例年多くの生徒が参加している。

仙台市立中野中学校

第　1　学年　　（　防災教育　）　年間指導計画

防災対応力の構成要素		知　識		技　能		態　度	
学習内容		防災や災害に関する周辺的・基礎的な内容		防災や災害に関する直接的な内容		防災や災害に関する間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教　科	総　合		特　活		道　徳
4	・災害対応カードの提出 ・避難訓練	・集団行動（保体）			・避難経路の確認 ・避難訓練（地震→津波避難）		
5	・校外学習 ・校外活動中の避難マニュアルの確認		☆絆を力に一歩ずつ（2章①）				・4（8）郷土愛・先人への感謝
6	・中総体中の避難方法の確認 ・避難訓練 （地震→津波避難→集団下校生徒確認）	・身近な地域の歴史（社会）	☆自分の身は自分で守る（自助）（4章②）	災害対応カードをもとに集団下校生徒の動きを確認する	・避難訓練（地震→津波避難→集団下校生徒確認） ☆自分の身は自分で守る（自助）（4章②）		
7	・合唱コンクール ・復興プロジェクト ・夏季休業中の安全指導 ・家庭訪問				・夏季休業中の安全指導		・2（2）人間愛・感謝・思いやり ☆ともに育つ（2章⑤）
8	・夏祭りなど地域行事					・地域行事への参加	
9	・ふれあい交流会	・心身の機能の発達と心の健康（体育）			地域行事への参加でボランティア精神，共助の心と態度をを養う	・ふれあい交流会へのボランティアでの参加	
10	・運動会	☆家庭でできる災害への備え（4章③：体育）					
11	・避難訓練 （地震→火災避難） ・復興プロジェクト ・ふれあいあいさつ運動			・煙ハウス体験 ・応急担架作成・搬送体験 ・水消火器体験	・避難訓練（地震→火災発生）		☆はじまり（5章②）
12	児童・生徒が，自分たちの住んでいる地域で，地域の大人とともにあいさつ運動を行う。	☆3.11の地震を科学の目でとらえよう（3章②：理科）	☆地域の一員として（5章②）				・3(2)自然愛・畏敬の念
1		・火をふく大地（理科） ・欲求やストレスへの心身への影響，適切な対処（体育）					
2		☆心の健康を守るために（4章⑤：体育） ・動き続ける大地（理科） ・大地の変化を読み取る（理科）	・野外活動事前学習				・4（6）家族愛，充実した家庭生活
3	・復興プロジェクト		・野外活動事前学習		☆防災知識をチェックしよう（6章①）		・3（1）生命尊重

☆ 副読本活用

仙台版防災教育　研究推進取組発表校　資料

仙台市立実沢小学校　第２・３学年

１　学校・地域の実態について

人口の少ない田園地帯。少子高齢化が進み，学校の児童数は16名と小規模。これまで，地震の被害をほとんど被ったことがない。2015年9月の豪雨で七北田川が氾濫，豪雨・暴風などについては警戒を強めている。地域住民の絆は非常に強い。

２　平成２８年度　仙台版防災教育で目指すべき児童生徒の姿

自らの命を守るために，主体的に行動できる児童

３　目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント（キーワードで）

地域との連携を高める防災学習

４　年間指導計画に基づいて実践した結果，児童生徒はどのように変容したか

防災の授業や防災研修会を通して，防災に対する意識が高まっている。また，地域や家族の一員としての自覚が芽生えている。避難訓練や道徳の授業・人権教室などを通し，命の大切さや他の人への思いやりの意識が高まっている。

＜　年間指導計画に基づいた実践の具体　＞

１　地域の防災研修「実沢・小角防災研修会」28年6月19日（日）実施

児童及び保護者，教員，地域世帯全員を対象とした防災研修会を行った。主催は，学校と実沢・小角の区民会。同時に学区民の球技大会が行われた。昼食には婦人防火クラブによる非常炊き出し訓練「カレーライス」が振る舞われ，数多い参加者で賑わった。合同防災研修は，NPO法人「防災士会みやぎ」の防災士による講話。地域の土地の特性や予想される災害について研修し，地震による地盤沈下（浮き上がるマンホール）の実験や防災クイズを行った。予想される災害の理解が深まった。

２　防災授業　（年間指導計画6月19日）

「防災」をテーマに授業参観を行った。2・3年生は，「どうする？大雨・強風だ！」の授業を行った。大雨によって堤防が壊れた小角の実際の写真を見たり，風車を持って風の強さを体験したりした。4・5年生は「災害から身を守るために」。いろいろな自然災害から自分の身を守るためにどのような行動をしたら良いか，写真を見たり実際の竜巻の動画を見たりして，学習した。

３　人権教室（11月29日）

毎年，人権養護委員の協力を得て「人権教室」を開催している。2・3年生は「思いやり，命の大切さ」4・5年生は「相互信頼，ルールを守ることの大切さ」を学んだ。6月2日「人権の花」運動を行い，プランター24個にマリーゴールドを植え，実沢小コミュニティセンターとグループホーム「愛の家」に贈呈した。花を育てることを通して協力，感謝することや，生命の尊さ・思いやりの大切さを学んでいる。

仙台市立実沢小学校

第２・３学年　　平成２８年度　　年間指導計画

防災対応力の構成要素		知識		技能	態度		
月	学習内容	防災や災害に関する周辺的・基礎的な内容		防災や災害に関する直接的な内容	防災や災害に関する間接的な内容		
	教科・領域 / 関連行事等	教科	生活・総合		特活		道徳
4	披露式・始業式 ■避難経路確認 春の交通安全教室					ひなんの仕方を考えよう 避難経路確認	考えよう　友だちのこと(2章❸) 友だちと仲良く助け合う２－
5	■避難訓練(地震) 学区民運動会	3年社会 学校の回り 地図をつくろう	ふるさとのよさをさがそう(3年総合)		地しんについて知ろう(3章❶)		
6	■防犯訓練 ■合同防災訓練	3年社会 仙台の町の様子			ひがいをうけた学校・地いき（1章❷) 災害から自分をまもろう(防災)	ぼうさいくんれんにさんかしよう(4章❼	大切なこと(2章❻)
7					つなみについて知ろう(3章❷)		
8							
9	秋の交通安全教室 秋の遠足						命あるものを大切に3－(1)
10	第1学期終業式 第2学期始業式 学芸会	3年理科 ろいろなさいがいについて知ろう(3章❸)					
11	★故郷復興プロジェクト 実小まつり ■避難訓練(火災・業間) 人権教室(人権擁護委員)		2年生活:まち探検	ふっこうをめざして(2章❺)			動物たちのいのち(5章❹)
12	スケート教室				見つめよう　わしの心(4章❾)		
1					きぼうの光(5章❷)		
2	雪遊び・そり遊び				けがをしたときは(4章❽)		
3	■避難訓練 (地震・自主避難) 卒業式・修了式		防災意識をチェックしよう(2)カ		仙台のさいがい年ぴょう・ふっこう年ぴょう(6章❸)		

仙台版防災教育　研究推進取組発表校　　資料

仙台市立福岡小学校　第４学年

１　学校・地域の実態把握について

福岡地区は，地域の人々同士のつながりが深く，学校も地域と共に深い信頼関係で結ばれている。東日本大震災の際は，地盤が固いため，地震の大きな被害もなく，自給自足できる体制であった。平成２７年の９月の豪雨では，土砂崩れや大雨による洪水の被害が大きく，道路が寸断される等，場所によって孤立する地区が一時的に発生した。それを機に地域の人々と児童は，防災に対しての意識が高まってきた。

２　平成２８年度 仙台版防災教育で目指すべき児童生徒の姿

（自助）災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け，自らの安全を確保できる児童
（共助）誰にでも積極的にコミュニケーションをとり，助け合うことができる児童

３　平成２８年度 目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

主体的に地域・保護者と連携して進める防災教育

４　平成２８年度 年間指導計画に基づいて実践した結果，児童生徒はどのように変容したか。

地震体験車グララで身をもって地震の揺れを体験することで，防災への意識が高まってきた。社会科の単元「地震や津波から身を守る」を学習し，地震，災害情報を積極的に知ろうとする気持ちが育ってきた。さらに年間を通して自分づくり教育を学年部で行い，他者と関わるコミュニケーション能力が育ってきた。

＜年間指導計画に基づいた実践の具体＞

１　自分づくり教育への位置付け（年間指導計画６月）

自分づくり教育として，コミュニケーションスキル向上をねらいとした活動を金曜日の朝活動で年８回設定した。「みとおす力」の育成をねらいとし，防災教育と関連付けて，「危険予知トレーニング」を学年部で実施した。３・４年生は，給食を配膳している教室を想定し，地震が起きた時どこに危険が潜んでいるか話し合った。学年部で話し合うことで，お互いに気付かないことや役割の分担を考えることができた。

２　地域保護者と連携した防災訓練（年間指導計画６月）

フリー参観の日に防災に関わる学習内容を設定。区役所や消防署と連携した防災訓練を行い，地域・保護者とともに地震体験車グララに乗り，地震の恐ろしさを疑似体験した。その後，全学級で防災副読本を活用した防災教育を行い，保護者には自由にそれぞれの授業を参観してもらった。参加した保護者からは，「地震の記憶が薄らぐ中，グララで揺れを体験して改めて激しい揺れだったと感じ，災害への備えを再度確認しようと思った。」の感想が聞かれた。びっくりした。など防災への意識を共有する機会となった。

３　外部機関と連携した着衣水泳教室（年間指導計画７月）

昨年度の水害等もあり，着衣水泳教室を実施した。今回は，専門家としてスイミングスクールのインストラクターを講師に依頼した。教職員からは，浮く工夫や実演など専門家ならではの指導がよかったとの声が聞かれた。

仙台市立福岡小学校

第４学年（防災教育）年間指導計画

			防災対応力の構成要素					
			知識			技能		態度
		学習内容	防災や災害に関する周辺的・基礎的な内容			防災や災害に関する直接的な内容		防災や災害に関する間接的な内容
月	安全の日 備考	教科・領域 関連行事等	教科	総合		特活		道徳
4		18日交通教室	地震や津波から身を守る（社会）					
5	１時間授業として	６日集団下校訓練				１章① 東日本大震災（行事）		
6	自分づくり 朝の活動で ニコニコタイム						危険予知	
	２０日のフリー参観で，年間計画をもとに，いずれか選定し実施する。	地震避難訓練 引き渡し訓練 防災訓練 地震体験車・応急手当	４章③ 応急手当ての方法（保健）			４章① 災害が起きたら（行事）		
7	１日（金） 安全の日 朝の活動で		着衣水泳（体育）			６章① 防災知識をチェックしよう（行事）		
8								
9		不審者対応避難訓練						
10	３日（月） 安全の日 朝の活動で	１３日 集団下校訓練	４章⑦ 応急手当ての方法（保健）					
11	１日（火） 復興プロジェクト終了後，各学級で10分	復興プロジェクト 火災避難訓練						２章⑤ 一番大切なことは（道徳）
12	１日（木） 安全の日 朝の活動で					４章② 災害から身を守る（行事）		
1								
2				４章⑧ 震災から文化財を守りつぐ人々				
3	復興プロジェクト終了後，各学級で10分	復興プロジェクト		４章⑨ 地震を乗り越えようとした先人の知恵（総合）				

大雨が降った場合の対応をした。通学路の状況を児童，保護者に確認した。

仙台版防災教育　研究推進取組発表校　資料

仙台市立根白石小学校　第４学年

１　学校・地域の実態について

本校は七北田川流域に立地しているが，日頃から，「川は危険なところであるから近づかない」と指導していることもあり，そばに川が流れていても，子供たちと川との関わりはあまり深いものではない。にとって，根白石小学区は，地域の組織がしっかりしているので，共助という観点から防災教育を進めやすいという利点がある。東日本大震災時に被害は比較的少なかったが，水害以外の自然災害に対しても，継続して取り組んでいく必要がある。

２　平成２８年度　仙台版防災教育で目指すべき児童生徒の姿

・地域社会における災害から命を守る工夫について知り，安全な行動の仕方ができる子ども
・災害に伴う危険について考え，適切な避難の仕方を身に付けている子ども
・防災対策の準備について考え，防災意識を高めている子ども

３　目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント（キーワードで）

地域の特徴を知り，適切に行動できる防災教育

４　年間指導計画に基づいて実践した結果，児童生徒はどのように変容したか

・起震車での体験を基に地震の怖さを再確認した上で，自分の命は自分で守るという自助の意識が高まった。
・昨年の関東・東北豪雨に引き続き，今年も大雨による洪水の危険性について話し合った結果，水の恐ろしさと同時に避難の方法を知り，さらに川とともに生きてきた根白石地区の地域を大事にしようという心情が育った。

＜　年間指導計画に基づいた実践の具体　＞

１．地震対応避難訓練　６月２０日実施

今年度は「自助」の意識をより高く持って行動できる児童の育成をねらいとして，以下のような訓練を計画し実施した。

①地震が授業中に起きたという想定で，授業者の指示に従って避難するという訓練を行った。
②避難について消防署の方から講評をいただいた後，起震車による地震体験を行うことにより，地震に対する怖さが薄れてきた現在，地震に対する意識をしっかり持たせられるようにした。
③以上の訓練を踏まえた上で，自助の観点から，業間休みに地震が起きたという想定で，児童のみで１次避難ができるかの訓練を実施した。教員がいないところで教室や廊下にいた児童は教室内の机の下にもぐり，校庭で遊んでいた児童は建物から素早く離れ校庭の中央で待機することができた。

２．総合的な学習の時間「福岡大堰見学」　11 月 24 日実施

総合的な学習の時間において，地域の農業用水確保のため約 150 年前に作られた福岡大堰のくぐり穴と，そのすぐ近くにある平成に造ったコンクリート製の堰を見学した。

その結果，くぐり穴が破損せず現在も使われているのに対してコンクリート製の堰が昨年の 9.11 豪雨で破損したこと(現在修理中)などを知り，先人たちの知恵のすばらしさとともに大雨による災害と七北田川についての関係を学ぶことができた。

根白石小　学校

第４学年　　年間指導計画

防災対応力の構成要素		知　　識	技　　能		態　　度
学習内容		防災や災害に関する基礎的な内容	防災や災害に関する直接的な内容		防災や災害に関する間接的な内容
月	教科・領域・関連行事等	教　　科	生活／総合	道　徳	副読本
4	交通教室 交通指導	火事からくら しを守る（社会）			東日本大震災　発生 （1章①）
5	集団下校訓練	水はどこから（社会）		だけど，くじけない ３ー(1)生命尊重	故郷復興プロジェクト
6	地震訓練 引き渡し訓練 救命救急法	事故や事件か らくらしを守 る （社会）	七北田川 川遊び体験		災害が起きたら（4章①）
7	避難訓練 （不審者）	着衣水泳（体育）		はるかのひまわり ３ー(1)生命尊重	災害に備える　（4章③）
8	交通指導				
9	野外活動（火起こし体験・野外炊飯）		七北田川 新堰見学		
10			大雨等による 川に対する防災調べ		取り組もうボランティ活動（5章③）
11	避難訓練 （火災）	水のすがたと温度（ガスコンロの使い方）（理科）	福岡大堰見学 川の上流の状況調査		避難訓練（火災）
12					
1		物のあたたまり方（理科）			震災を乗り越えて（5章④）
2					一番大切なことは（2章⑤）
3					復興へ今を力強く（2章②） 防災知識をチェック（6章①） 復興年表6章③

仙台版防災教育　研究推進取組校　資料

仙台市立根白石中学校　第２学年

１　学校・地域の実態について

全校生徒８４人と少人数であるが，規範意識が高く，落ち着いた教育活動を行っている。地域に貢献しようという意識があるので，実践に結び付けていきたい。
地域の実態としては，学区が山間部で広範囲に渡り，河川の氾濫や土砂災害などの災害が懸念される。また，住民の高齢化が進み，地域全体で防災に取り組む必要性がある。

２　平成２８年度　仙台版防災教育で目指すべき児童生徒の姿

防災・減災の知識を身に付け，安全を確保できる生徒
地域のリーダーとなる自覚を持ち，地域に貢献しようという意識を持った生徒

３　目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント

公所・地域との連携を図るための防災教育
行事や防災副読本を活用した防災教育

４　年間指導計画に基づいて実施した結果，児童生徒はどのように変容したか

防災と関連づけた行事や，副読本を活用した防災教育をとおして，防災意識・減災意識を持ち，自分たちも取り組むことができる活動があることを認知できた。

＜　年間指導計画に基づいた実践の具体　＞

１　野外活動での防災教育（年間指導計画５月）
「志津川自然の家」での活動プログラムの中に，震災講話や戸倉中学校のドキュメントビデオの視聴を取り入れた。海の恵みと津波災害についての知識を深め，現地の人の復興にかける思いを感じることができた等印象に残る活動となった。

２　公所と連携した防災訓練（年間指導計画６月）
泉区役所まちづくり推進課の職員と協働し，避難訓練後にアルファ米を使った“炊きだし”訓練を実施した。初めて取り組む生徒も多かったが，いざというときの心構えを持つ必要性と，具体的な技能の習得に役立つ活動であった。

３　広い視野を持たせる防災訓練（年間指導計画６月）
原発事故で避難生活を送っている飯舘村の方々に，校地内で実を付けた梅を送る活動である。自分たちの活動がどんな意味を持つのか，近郊以外の人々の実情を考える機会となる活動であった。

仙台市立根白石中学校

第２学年　　（ 防災教育 ）年間指導計画

防災対応力の構成要素		知　識		技　能		態　度	
学習内容		防災や災害に関する周辺的・基礎的な内容		防災や災害に関する直接的な内容		防災や災害に関する間接的な内容	
月	教科・領域 / 関連行事等	教　科	総　合		特　活		道　徳
4	・オリエンテーション（避難経路確認） ・生徒会説明会	・集団行動（保健体育）			☆復興に駆ける(1章②) ・避難経路の確認 ・非常時下校体制の確認		
5	・野外活動	・日本の様々な自然災害と防災(社会)	・3．11における津波災害の講話				☆花と緑で人々に笑顔を(2章⑤) ・3(1)新しい命
6	・中総体 ・防災訓練 ・梅収穫	☆一人一人が災害に備える(4章①：家庭) ・住まいの安全対策（家庭） ・災害への備え(家庭)	・復興の実態	・炊き出し訓練(アルファ米)	☆地震に備えよう(3章④) ・避難訓練(地震・集団行動)	・自分たちにできる取組	・4(8)郷土愛・先人への感謝
7	・合唱コンクール ・夏季休業中の安全指導 ・家庭訪問		・根白石を知ろうプロジェクト自分たちの手で伝承しよう				☆心の交流会(2章④)
8	・夏祭り（地域行事）					・地域行事への参加	
9	・根中祭	☆地震に伴う災害について知ろう(3章③：理科)	・根白石を知ろうプロジェクト自分たちの手で伝承しよう				・1(2)着実にやり抜く意志
10	・冠のふるさと伝承まつり ・青春祭（運動会）	・前線とまわりの天気の変化(理科)				☆1.17から3.11へ(5章④)	・2(2)思いやり【私たちの道徳】
11	・避難訓練 ・復興プロジェクト	・日本の天気の特徴(理科) ・気象災害への備え(理科)		・避難訓練		☆心を満たす食べ物を届ける(5章①)	【私たちの道徳】p178～179
12	春待ち凧揚げフェスタ	☆仙台平野災害の歴史を学ぼう(3章⑥：社会)					・3(3)人間の気高さ
1		☆風水害に備えよう(3章⑤：理科)					・4(5)人々のために
2		・傷害の防止(体育)	・地域のためにできること ☆地域の一員として(5章③)				・3(1)生命尊重
3		・身近な地域の調査(社会)			☆防災知識をチェックしよう(6章①)	☆仙台の自然災害年表・復興年表(6章③)	・3(1)自然への畏敬 【私たちの道徳】p98～107

☆ 副読本活用

仙台市立高森東小学校　第６学年

１　学校・地域の実態について

震災の被害がほとんどなく，水道や電気の面でも苦労が少なかった地域である。地域では，避難所開設訓練を毎年行い，年々改善を加えている。その防災訓練において，小中学生の希望者が“すこボラ隊”として活躍している。

２　平成２８年度　仙台版防災教育で目指すべき児童生徒の姿

【自助】災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け，非常時に冷静に判断し，臨機応変に自らの安全を確保できる児童
【共助】非常時に進んで他の人や地域の力となれる児童

３　目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント

【当たり前の指導を，年間通して，どのクラスでも，確実に，行う】
① 横断的，全教育活動で行う防災教育
② 協働型学校評価目標と関連付けた防災教育

４　年間指導計画に基づいて実践した結果，児童生徒はどのように変容したか

【自助】集団下校や避難訓練時の様子から，冷静に判断し，行動できる児童が多くなっていることがうかがえる。(緊急放送に対する適切な反応。休み時間に児童だけでも正しい行動。)
【共助】高森地域全体が，上学年は下学年の面倒を見ることが当たり前の雰囲気になりつつある。

＜　年間指導計画に基づいた実践の具体　＞

１　普段の授業を防災の観点でつなぐ

本校では，学校行事などで取り組む避難訓練が年３回，集団下校訓練が２回，引渡訓練が１回実施されている(以後，学行等)。学行等の際に重視しているのが，事前と事後の指導である。例えば，６月の“地震に対する避難訓練”を核として，６年生は，道徳の時間において自他のいのちの重さについて考え，訓練直前には学活「避難訓練のめあてを立てよう」で具体を確認する。訓練後には，朝の活動「たてわりショート」において，低学年と遊び，その後，「もしこのとき地震があったらどうする。」と担任が投げかけ，実際の生活と結び付ける。

２　朝のショートタイム“防災学習”で確実に指導

学行等の事前，事後指導に欠かせないのが朝のショートタイム“防災学習”である。学行等の前・後の木曜日(学行等がないときは３週に一度程度)に位置付けられており，全校で・確実に・繰り返し防災について学習する。防災学習では，防災教育副読本も使用し，必要な知識や技能，心構え等を確認している。６年生になると副読本の同じ所を見ることもあるが，いのちに関する大切なこととととらえ，繰り返し学習している。

３　共助は活動と生活の中で育む

本校の子供たちを見ていると感心することがある。それは，６年生が何気ない優しい言動を日頃から見せていることである。

たてわり活動では，低学年の手を取り，一緒に遊んだり，鶴を折ったりする姿があちらこちらで見ることができた。高森東地区防災訓練では，「自分たちでできるのは低学年のお世話」と，進んで幼稚園～低学年に本を読んであげたり，遊びの相手をしたりする“すこボラ隊”の姿があった。そこに，いざという時にしっかり低学年の面倒を見て，地域の一員として働く姿が見て取れる。

特別のことではなく，当たり前のことを，全員で，確実に指導する。それが本校の防災教育である。

高森東小学校

第６学年　　防災教育年間指導計画

	知識		技能		態度		行事等
	教科	生活・総合		特別活動		道徳	
４月				・たてわり活動ロング		◆その向こうに(1章③) ・身近な集団 ・節度ある生活態度	・避難訓練(経路確認) ・家庭訪問
５月	(体)病気の予防	◆(学)大きな災害と人間の心の動き(3章⑤)		・たてわり活動ショート			・交通安全教室
６月	(国)新聞の投書を読んで意見を書こう (理)生き物のくらしと環境		◆家族防災会議を開こう(4章④) ・修学旅行・自主研修	・たてわり活動ショート	・避難訓練事前指導	・節度ある生活態度 ・生命尊重	・避難訓練(地震) ・修学旅行 ・集団下校訓練 ・スチューデントシティ
７・８月			◆チャレンジ!子ども防災モニター(4章⑤)	・たてわり活動ショート	・夏休みの生活 ・災害時の家族の約束	・家族愛	・高森東夏祭り ・復興サミット ・高東オリンピック ・救命講習
９月	(理)大地のつくり (理)変わり続ける大地	◆地震を乗りこえようとした先人の知恵(4章⑨)		(体)着衣水泳 ・たてわり活動ショート	・絆プロジェクト	・節度ある生活態度	
１０月	◆(理)地震のメカニズムを知ろう(3章①) (国)町の未来をえがこう				・絆プロジェクト	・郷土愛	・高森東地区防災訓練 ・集団下校訓練
１１月				・たてわり活動ショート	・避難訓練事前指導	・生命の尊重	・避難訓練(火災) ・故郷復興プロジェクト
１２月	◆(社)人々をつなげる活動(5章②) (社)震災復興の願いを実現する政治			・たてわり活動ショート	◆未来へつなぐ(2章③) ・冬休みの生活		
１月	(家)わたしたちの生活と地域			・たてわり活動ショート	・絆プロジェクト		
２月	◆(社)つながる～世界の国々と～(5章①) (社)世界の中の日本			・たてわり活動ショート			
３月		◆(学)防災知識をチェックしよう(6章①) ◆(学)仙台の自然災害年表・復興年表(6章③)		・たてわり活動ロング	・故郷復興プロジェクト	・生命の尊重	・故郷復興プロジェクト

仙台市立高森小学校　第４学年

１　学校・地域の実態について

本校は,東日本大震災の被害は比較的少なかった。防災に対する意識は薄れつつあるものの,昨年度から行われた地域合同防災訓練には,たくさんの地域の方が参加し,少しずつだが意識が高まってきている。

２　平成２８年度　仙台版防災教育で目指すべき児童生徒の姿

（自助）自らの命を守り抜くために,主体的に行動できる児童の育成
※（共助）低学年のお世話＆避難,避難所の活動（アルファ米）地域の方との交流（会話）

３　目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント（キーワードで）

避難訓練などを中心とした防災学習

４　年間指導計画に基づいて実践した結果，児童生徒はどのように変容したか

（下）机の下に潜るや放送を聞くなど，危険に備えた行動ができるようになった。
（上）頭を守るや登下校中の対応,危険回避の方法などの理解ができた。また,６年生は，日常起きた地震の際に，自発的な避難行動がとれた。

＜　年間指導計画に基づいた実践の具体　＞

１　休憩時の避難訓練（７月）

７月の避難訓練は，休憩時に地震が発生した場合を想定して行った。事前訓練として，１週間前の休憩時に放送の聞き取り訓練のみを行い，職員は，その場にいた児童の動きだけの確認を行った。当日は，校庭で安全に行動できていない児童やトイレや怪我などの想定外の事が起きた時に対応できるのかが課題となった。しかし，この訓練はより実践的な取組だったと感じた。

２　地域合同防災訓練（１０月）

１０月１５日（土）に仙台地方で震度５強の直下型地震が発生したと想定して行った。１時間目に防災の授業，２時間目に避難訓練と引き渡し訓練，３・４時間目に避難所生活という流れだった。昨年度，初めて実施。多くの課題があったが，今回は教頭先生による震災についての講話と市役所の家庭健康課の方を依頼して，エコノミークラス症候群の予防運動を行った。訓練自体もスムーズに進んだ。また，６年生によるアルファ米の配布の手伝いができた。

３　日常の活動

４月からのたてわり活動や挨拶の励行，ひまわりプロジェクトの活動などを行ってきた。児童相互の関係，また，地域の方との交流を意図的に設けることで，顔見知りの関係を築いていけるようにと心がけてきた。学校と地域の協力体制の構築のために，日頃からの人間形成は大切であると感じた。

高森小　学校

第　4学年　（　防　災　教　育　）年間指導計画

防災対応力の構成要素		知　識		技　能		態　度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺的・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教　科	総　合		特　活		道　徳
4	☆避難経路確認 ・交通安全教室 ・引き渡しカード配付 （保護者へ）	・火事からくらしを守る （社会）			・登下校の安全 ・避難経路の確認 ・非常時下校体制の確認 ・たてわり顔合わせ （じゃがいも）	☆東日本大震災発生 ☆希望の詩～「ない」～ （第２章①）	思いやり 勤労の観点
5	・地区巡視 ・運動会 ・野外活動 ☆避難訓練（地震） ・３校あいさつ運動		わたしたちにできることは（福祉）		たてわり遠足	☆その向こうに （第１章③	なにかお手伝いできることはありますか？ （思いやり）
6	・修学旅行 ☆防犯訓練 （体育館に避難→集団下校）	・事故や事件からくらしを守る（社会）	安全マップ作り		たてわり遊び	☆！チャレンジ子ども防災モニター（４章⑤）	
7	☆避難訓練（休憩時） ・避難所マニュアル確認 （職員）	・水はどこから （社会）			たてわり （芋掘り）	☆災害から身を守るために （第４章②） ・夏休みの生活	「もっこ」をせおって （勤労）
8	（地域行事への参加）					・地域行事への参加	
9	・収穫祭				たてわり遊び		
10	☆地域合同防災訓練 平成２７年度より					☆！地震のメカニズムを知ろう （第３章①）	
11	☆復興プロジェクト （３校あいさつ運動） ☆避難訓練（火災） ・学習発表会					☆！災害が起きたら（４章①）	ゆうき君の心配（思いやり）
12					たてわり遊び	・冬休みの生活	
1			感謝の会（１０才）				
2					たてわり お別れ会		
3	☆復興プロジェクト ・お弁当の日（全） ・年間を通して，高学年中心のひまわりプロジェクト ・震災を経験した職員の講話					☆一番大切なことは （第２章⑤） ・春休みの生活	ポロといっしょ（思いやり） 点字メニューにちょうせん （勤労）

仙台市立高森中学校　第２学年

１　学校・地域の実態について

本校は仙台市の北西部泉パークタウン東部の丘陵地帯に位置しており，震災の影響はあまりなかった。高齢化が進み，非常時に不安を抱える世帯も増え，中学生の力への期待も出てきている。高森中学校区には，２つの連合町内会があり，それぞれで別の日に小学校を会場にして防災訓練を行っている。中学生は，地域ボランティアとして積極的に参加しているが，中学校区としての地域防災の在り方について検討しているところである。

２　平成 28 年度　仙台版防災教育で目指すべき児童生徒の姿

自助と共助ができる生徒の育成

自助：災害に関する正しい知識や対応能力を身に付け，非常時に冷静に判断し，臨機応変に自らの安全を確保できる生徒

共助：非常時に進んで他の人や地域の力になろうとする生徒

３　目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント　（キーワードで）

・災害発生時における自助の方法と中学生としてどのように共助に関わることができるかを考えさせる。
・災害時の正確な情報入手方法を知り，緊急時に情報を活用できる能力を育成する。
・話し合いを通して互いの意見を共有し，防災対策の面から地域における自己の在り方を考えさせる。

４　年間指導計画に基づいて実践した結果，児童生徒はどのように変容したか

２度の避難訓練や学年・学校行事における集団訓練を通して，自助のための知識や対応能力を多くの生徒が身に付けた。さらには，６月の避難訓練後に行った「地区ごとの集団下校確認」や１０月の避難訓練後に行った「仮設トイレ・テントの設営訓練」の結果，「私たち中学生は，災害が来たら『守られる』のではなく，『守っていく』ようにしていきたい」と考える生徒が多くなった。

＜　年間指導計画に基づいた実践の具体　＞

１　６月と１０月の避難訓練（年間指導計画 6 月と 10 月）

６月には，地震想定の避難訓練の後，地区ごとに集まって，３年生の代表者が中心になる集団下校の確認をした。上級生が，同じ地域の下級生をリードしていこうという意識ができた。また，１０月には，火災想定の避難訓練の後，２年生全体で仮設トイレとテントの設営訓練を行った。生徒たちは，震災のとき，周りの大人たちに守ってもらい，多くの世話をしてもらった。この訓練で，自分たちだけで被災者が使うトイレなどを作っていく活動を通して，自分たち中学生が守られる立場ではなく，家族や地域の人たちを守っていく立場にもなれることに気付くことができた。

仮設トイレの設営訓練

２　すこボラの地区防災訓練参加（年間指導計画 10 月）

中学校として参加していないため，１０月に２つの小学校で別々に行われた高森地区の防災訓練に延べ２６名ほどの生徒がボランティアとして参加した。テント張りや炊き出しの準備，非常食の調理と配付など多くの作業を手伝った。大人と共に働くことで，自分たちが災害時でも多いに役立ち，共助できることを生徒たちは感じとっていたようである。その場にいた大人たちも中学生の働きぶりにとても感心し，災害時にも頼りにしたいという声をいただいた。

地区防災訓練での非常食調理

仙台市立高森中学校　　第　2　学年　　（　防災教育　）　年間指導計画

防災対応力の構成要素		知　識		技　能		態　度	
学習内容		防災や災害に関する周辺的・基礎的な内容		防災や災害に関する直接的な内容		防災や災害に関する間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事など	教　科	総　合		特　活		道　徳
4	・校内安全点検 ・安全な登下校指導と通学路の確認 ・引き渡しカードの作成	・世界の火山や地震の分布（社会） ・エネルギー変換に関する技術（技家） ・集団訓練（保体）			・避難方法と避難経路の確認 ・非常時下校体制の確認		・自分と相手を大切に
5	・校内安全点検 ・小中合同あいさつ運動 ・野外活動	・エネルギー変換に関する技術（技家）		・野外活動集団訓練（緊急時の対応）	☆復興にかける（学活） ・中総体時の災害対応の指導	すこボラ ・あいさつ運動	・個性豊かな文化
6	・校内安全点検 ・避難訓練①（地震想定）と集団下校体制の確認	☆仙台平野～災害の歴史を学ぼう～（社会）		☆中学生の声～助け合うってすばらしい～	避難訓練①（地震想定）と集団下校体制の確認		・地球環境を考える
7	・校内安全点検	・地域を調べ，主題図を作ろう（社会）		・合唱コンクールの災害対応指導	夏季休業中の安全指導	すこボラ ・街頭キャンペーンへの参加	・正義を考える
8	・校内安全点検	・情報に関する技術（技家）				すこボラ	・人間のすばらしさ
9	・校内安全点検	・情報に関する技術（技家） ・運動会練習「集団訓練」（保体） ・水泳「着衣水泳」（保体）				すこボラ ・交通安全運動への参加	・かけがえのない命
10	・校内安全点検 ・職場体験活動 ・避難訓練②（火災想定）と非常時体験	・九州～豪雨による土砂くずれと水害　（社会）			避難訓練②（火災想定）と非常時体験（1年：消火訓練 2年：仮設トイレの設営訓練 3年：濃煙体験	すこボラ ・高森東地区と高森地区の防災訓練に参加 ・高森児童センター祭りへの参加	・人生と仕事を愛する
11	・校内安全点検 ・故郷復興プロジェクト	・心肺蘇生法，ＡＥＤの使い方（保体） ・球技大会練習（集団訓練）（保体）				すこボラ ・故郷復興プロジェクト ・あいさつ運動	・生きる意志
12	・校内安全点検	☆知っておきたい心肺蘇生法とＡＥＤの使い方（保体） ☆家庭でできる災害への備え（保体）					・自律して生きる
1	・校内安全点検 ・小学校６年生中学校訪問	・傷害の防止～応急手当（保体） ・天気とその変化（理科）					・郷土の伝統
2	・校内安全点検	・自然災害と対策（社会）					・地球家族の一員として
3	・校内安全点検 ・東日本大震災犠牲者への黙祷	・身近な地域の調査をしよう（社会）		・修学旅行時の災害対応指導			・人生を切りひらく

☆副読本の活用

仙台版防災教育　研究推進取組発表校　資料

仙台市立松森小学校　第６学年

１　学校・地域の実態について

全校児童が２４９名という小規模校。県民の森の西側の丘に，鶴が丘中学校と隣接する形で位置している。年間を通してキッズと呼ばれる縦割り活動が盛んである。町内会ごとに夏祭りや運動会を行うなど，地域のまとまりが強い。震災による被害は比較的少なかった。

２　平成２８年度　仙台版防災教育で目指すべき児童生徒の姿

自助については「自らの身を守り適切な行動ができる児童」
共助については「他人と積極的に関わり，自分にできることを実践する児童」

３　目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント（キーワードで）

「教科・領域の指導に関連させた防災教育年間指導計画」

４　年間指導計画に基づいて実践した結果，児童生徒はどのように変容したか

○自分の身を守るための具体的な動きについて理解が深まった。
○災害時には６年生を中心に上級生が下級生の面倒を見ながら避難したり避難後の活動を行ったりするのだという意識が高まってきた。
○地域に住む様々な立場の人に目を向け，自分たちが地域に貢献できることを考えるようになった。

＜　年間指導計画に基づいた実践の具体　＞

１　各種の避難訓練について

まず４月に避難経路確認を行う。防災頭巾を着用し教室から校庭に避難する際の経路を全員が確認する。５月の避難訓練では，地震を想定して行い校庭の各学年の避難場所を確認した。また，コース別集団下校の集合訓練も行った。９月には休み時間中の災害を想定した抜き打ちの避難訓練も行われたが，この頃には縦割り活動も軌道に乗り，６年生が手本となり，低学年まで迅速に避難をすることができた。他にも火災を想定した訓練や引き渡し訓練などを行ったが，放送をしっかりと聞き真剣な態度で訓練に取り組む児童の姿が見られた。

２　特別活動や行事の様子について

全校遠足では，異学年で手をつないで近くの県民の森まで歩いて行く。アスレチックで遊ぶ際には，怖がる低学年を励ましたり，安全に気を付けさせたりしながら上手に遊ばせる姿が見られた。また，帰りは疲れた１年生を６年生がおんぶするなど微笑ましい光景が見られた。全校田植えでは，地域の方に田んぼを借りて，これも異学年で田植えをした。上学年は下学年の田植えのお世話をするだけでなく，靴下や足を洗ってあげたり荷物をまとめてあげたりと細やかな心配りを見せていた。キッズタイム（縦割り遊び）では，互いが積極的に関わり，学年に応じた役割分担で楽しく遊ぶ活動を行った。クリスマスの時期にはグループごとに一緒に工作をし，思い出の作品を作った。→こうして高学年は中・低学年の信頼を築き，いざという時にリーダーシップを発揮し，指示を出したりお世話をしたりしながら，まとまって行動できるような体制を作っている。

３　教科指導について

６年の国語「町の幸福論―コミュニティデザインを考える」の授業では，児童が，学区内に住むさまざまな立場の人に当時の様子や困ったことなどをインタビューした。そこで得られた情報をもとに，地域が自分たちに何を期待しているのかを考え，自分たちにできることをプロジェクトとして提案・プレゼンをするという授業を展開した。この活動を通して児童は地域にいる様々な立場の人の存在を意識するとともに，有事の際に自分たちに何ができるかという共助の意識を高めることができた。

松森小学校

第６学年　　（　防災教育　）　年間指導計画

松森小学校　防災教育年間指導計画						小学校 第6学年
防災対応力の構成要素		知　識		技　能		態　度
学習内容		防災や災害に関する周辺的・基礎的な内容		防災や災害に関する直接的な内容		防災や災害に関する間接的な内容
月	教科・領域 / 関連行事等	教　科	総　合		特　活	道　徳
4	・避難訓練 （避難経路確認） ・1年生を迎える会（キッズ）		全校遠足下見			キッズ（縦割り活動）組織作り
5	・登校指導 ・戸口訪問 ・避難訓練（地震） ・集団下校集合訓練		全校田植え事前指導		避難訓練事前事後指導 ☆P34　災害に備える	集団下校集合訓練事前指導
6	・登校指導・引き渡し訓練 ・不審者対応避難訓練 ・自転車教室	保健「病気の予防」			学活 引き渡し訓練事前指導 ☆P36～38家族防災会議をひらこう	副読本「この手に命を受けて　国境なき医師団」（生命尊重）
7	夏休み前全校集会			東北大出前授業「減災教育」		
8	・登校指導 ・コース別集団下校					
9	・登校指導 ・地域総合防災訓練 ・避難訓練（業間）	体育「着衣水泳」	全校稲刈り事前指導		地域防災訓練 ☆P35　災害に備える	避難訓練（休み時間）
10	・登校指導	理科 「大地の作りと変化」 火山の噴火や地震による土地の広がり ☆P20　地震のメカニズムを知る				
11	・故郷復興プロジェクト ・避難訓練（火災） ・登校指導 ・地域交流（鶴中生来校）	国語「町の幸福論」―災害に強い街づくり―			避難訓練事後指導	
12	・冬休み前全校集会	社会「わたしたちの願いを実現する政治～災害から人々を守る」				私たちの道徳 P108「かけがえのない命」（生命尊重）
1	・登校指導 ・冬休み明け全校集会 ・コース別集団下校					私たちの道徳 P154「社会のために力をつくす」（公共）
2	・登校指導					
3	・登校指導	社会 「世界の中の日本」世界の未来と日本の役割 ☆P48～49つながる～世界の国々と～				
						☆ 副読本活用

仙台市立鶴が丘小学校　第３学年

１　学校・地域の実態について

- 児童の多くは，東日本大震災の記憶が薄らいできている。
- 学区は，内陸部で高台にあり，津波の心配はない。また，東日本大震災時の被害は比較的少なく，豪雨による洪水や土砂災害の被害もない地域である。団地造成から約４０年が経過し，高齢化が地域の課題となっている。住民の防災意識の差は大きい。

２　平成２８年度　　仙台版防災教育で目指すべき児童生徒の姿

- 災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け，自分の安全を確保できる児童〔自助〕
- 災害時に友達や家族，地域の方々と協力して行動する児童〔共助〕

３　目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント

- 自分づくり教育を生かした防災教育学習
  （総合的な学習の時間や特別活動と関連づけた年間指導計画の工夫）

４　年間指導計画に基づいて実践した結果，児童生徒はどのように変容したか

- 事前指導と事後の振り返りを確実に行うことにより，避難訓練の意義を自分のこととしてしっかり捉え，積極的に実践しようという意識が高まってきた。また低学年の児童を気遣ったり，低学年の手本になろうという姿勢が見えたりと，中学年としての自覚が見られるようになってきた。
- 総合的な学習の時間の学習で学区内を歩き，災害が起きた際に危険な物・場所や避難できる安全な場所を調べたことにより，日頃から防災という視点で学区内を見るようになってきた。防災意識の高まりを感じる。

＜年間指導計画に基づいた実践の具体＞

１　避難訓練（４月・６月・１１月）・地区別集団下校訓練（６月・１２月）

災害の内容や発生時間帯等の想定を変えた避難訓練を年に３回実施している。それぞれの避難訓練の目的を事前指導で確認し，事後指導の振り返りで出てきた課題を次の訓練に生かすことを繰り返してきた。その結果，目的意識を持って主体的に避難行動をとるようになってきた。特に業間の避難訓練では，友達と声を掛け合いながら避難場所に向かったり，低学年の児童を気遣いながら移動したりと，中学年としての自覚も見られた。

２　自分づくり教育を生かした防災教育

本校では，自分づくり教育で育む５つの力のうち，「うごく力」と「かかわる力」に重点を置いて取り組んでいる。この２つの力は，本校の目指す防災教育の「自助」と「共助」に通じる。

そこで，３年生では，自分づくり教育との関連を図り，総合的な学習の時間と特別活動を通して，〔自助〕と〔共助〕の力を育んでいきたいと考えた。

（１）総合的な学習の時間「鶴が丘博士になろう」〔自助〕

単元「鶴が丘博士になろう」では，「防災マップ作り」を通して，児童同士の関わりや地域との関わりを深め，一人一人のテーマに迫る調査活動を行った。児童は，普段何気なく生活している学区内を，防災という視点を通して観察したことで，危険な場所や物，また，安全で避難可能な場所や役立つ物が，たくさんあることに気付いた。その気付きを図にまとめ，発表し合うことを通して共有化を図った。

その後，「地震」「火事」「大雨」の課題別グループに分かれて，新たに疑問に思ったことを，更に調べてまとめ，学年で発表し合った。今後，２年生に向けても発表する予定である。学区内の防災マップを作る活動により，児童は日頃から防災という視点で学区を見るようになってきた。

（２）特別活動（たてわり活動・たてわり遠足）〔共助〕

年間１７回，全校でたてわりグループで活動する時間を設定している。その中の１回は，隣接する県民の森まで徒歩で往復し，アスレチックなどで遊ぶ「たてわり遠足」を実施している。

このように，年間を通して，たてわり活動を行うことで，異学年の交流が深まり，お互いが顔と名前を知り，声を掛けやすい人間関係が築かれている。また，リーダーとしてグループをまとめている高学年児童の姿は，低・中学年児童のよい目標となっている。

仙台市立鶴が丘小学校

第3学年　防災教育年間指導計画

防災対応力の構成要素		知　識		技　能		態　度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺的・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教　科	総合的な学習の時間		特別活動		道　徳
4	・避難訓練 （避難経路確認） ・交通安全教室	・学校のまわり （社会科）			・登下校の安全 ・避難経路の確認 ・非常時下校体制の確認	・たてわり活動 （年17回）	☆たった一つのもの （1章③）
5	・地域訪問	・わたしたちのまち みんなのまち	○鶴が丘博士になろう		☆ひなんのし方を考えよう （4章③）		・4(5)郷土愛
6	・避難訓練（地震） ・一斉下校訓練 ・引渡し訓練 ・復興プロジェクトデー （地域清掃）		・町の防災について調べよう		・避難訓練事前事後指導（地震） ・集団下校のためのたてわり活動 ☆地しんについて知ろう(3章①)		
7	・避難訓練 （休み時間）	☆ぼうさいマップを作ろう （4章②：生活） ・着衣水泳 （体育科）	・防災マップを作ろう			・夏休みの生活	☆大切なこと （2章⑤）
8	（地域行事への参加）					・地域行事への参加	
9	・たてわり遠足		・昔の鶴が丘について調べる		☆自分できめる （4章④）		
10		☆雨・風・かみなりについて知ろう （3章③:理科）			☆家族ぼうさい会ぎをひらこう （4章⑤）		
11	・復興プロジェクトデー （地域清掃） ・避難訓練（火災）			☆ふるさとを元気に自分たちにできること （2章③）	・避難訓練事前事後指導（火災）		・4(3)家族愛
12	・一斉下校訓練	☆けがをしたときは （4章⑧：体育科）			・集団下校のためのたてわり活動	・冬休みの生活	
1			☆たくさんのおうえん （5章①）				
2						☆つたえよう わたしたちのことばで （5章⑥）	
3	・復興プロジェクトデー				☆ぼうさい知しきをチェックしよう （6章①） ☆仙台のさいがい年ぴょう・ふっこう年ぴょう （6章③）		

☆ 副読本活用

仙台版防災教育　研究推進取組発表校　資料

仙台市立鶴が丘中学校　第１学年

１　学校・地域の実態について

本中学校は，仙台市北西部が学区であり，東日本大震災における被害はほとんどなかった。地域の実態として，学校教育への関心が高く，協力的である地域である。９月には，地域と中学校が協力して地域防災訓練が実施されている。

２　平成２８年度　仙台版防災教育で目指すべき児童生徒の姿

「災害に関する知識や対応と身に付けさせ，災害時に冷静に判断し，
自らの命を守ることができる生徒」

３　目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント（キーワードで）

地域との交流・連携を図った防災教育・学習

４　年間指導計画に基づいて実践した結果，児童生徒はどのように変容したか

指導計画に基づいて実践した結果，地震体験を思い出し，真剣に防災について考える生徒が増えたと感じる。また，防災訓練に参加した生徒は，応急手当など有事の時の対応も学習することができた。

＜　年間指導計画に基づいた実践の具体　＞

１　校外学習（年間指導計画５月）

１学年の校外学習では，モリウミアス（雄勝町）を訪問した。震災当時，雄勝小学校教諭であった徳水先生に講話をいただき，東日本大震災の時の対応を基に，地域の防災意識の大切さを語っていただいた。生徒たちは，自分たちの地域の避難所マニュアルを知っておくことの重要性を感じていた。

２　地域合同防災訓練(年間指導計画９月)

部活動ごとの参加となったが，多くの生徒が積極的に参加していた。中学生は，当日の朝から本部の設置を行い，避難してくる住民を受け入れた。

その後の全体訓練では，消防団による放水訓練を見学し，消火訓練，通報訓練，応急救護訓練，災害伝言ダイヤル訓練を順番に行うことができた。

また，「地震体験車」で，震度６弱の揺れを体験し，震災当時のことを思い出していた。

個人としての防災意識はもちろんのこと，地域防災としての意識の高まりが感じられた。

仙台市立鶴が丘中学校
第１学年　（　防災教育　）　年間指導計画

防災対応力の構成要素		知　識		技　能		態　度	
学習内容		防災や災害に関する周辺的・基礎的な内容		防災や災害に関する直接的な内容		防災や災害に関する間接的な内容	
月	教科・領域　関連行事等	教　科	総　合		特　活		道　徳
4	・校内安全点検（3 月まで） 学校安全の日(3 月まで) ・交通安全教室 ・避難方法と避難経路の確認	・集団行動 （保健体育）	校外学習に向けた緊急時対応指導				
5	一斉防災学習①(総合)		・一斉防災学習① コミュニケーション、校外学習緊急時の対応		市中総体、防災訓練に向けた事前学習		優しい心 2-(2) 防災訓練との関連
6	一斉防災学習②(道徳) ③(特活) ・第一回防災訓練(地震・12 日) (地域一斉防災訓練)	・文字と式「雷の光と距離の関係」(数学)			一斉防災学習③ 自分の身は自分で守る！(副読本第4章②)	・市中総体時の災害発生指導	一斉防災学習② 中学生の声　助け合うってすばらしい (副読本第2章③)
7	合唱コンクール(安全指導) 「安全」について調査		・合唱コンクール事前指導			・夏季休業中の安全指導 ・復興プロジェクト折り鶴づくり	
8	「安全」について調査	・心身の機能の発達と心の健康(保体) ・文章を読み情報を捉え、自分考えに生かす(国語)					
9	・学習発表会 ・地域合同防災訓練			一人一人が災害に備える(副読本第4章①)		「安全」について調査・発表	
10	一斉防災学習(総合)④ 運動会(集団訓練)	・情報に関する技術(技家)	・運動会練習 (集団訓練)	一斉防災学習(総合)④ 風水害に備えよう (副読本第３章⑤)	大雨特別警報など災害に対する知識		支え合う家族 4-(6)
11	・第２回防災訓練(火災)						
12	全校一斉防災学習(総合)⑤		全校一斉防災学習⑤地域の一員として(副読本第5章③)	・命の大切さ			生命の尊さ 3-(1)
1		衣生活、住生活と自立 (技家)					好ましい世の中 4-(2)
2		・大地の変化「地震・津波」(理科) ・コミュニケーション能力「体調の説明」(英語) ・身近な地域の調査(社会)			３月故郷復興プロジェクトとの関連？		
3	・故郷復興プロジェクト	・復興ソング合唱(音楽)		東北地方太平洋沖地震発生(副読本第1章①)			思いやり 2-(2)

仙台版防災教育　研究推進取組発表校　資料

仙台市立北中山小学校　第4学年

1　学校・地域の実態について

仙台市の北西部に位置し，震災の被害も少なかった。学区は東西に広く，遠くから徒歩で通学する児童が多い。学校では緑化活動，読み聞かせ活動，環境学習，福祉体験活動を意識した学習の積み重ねで地域とのかかわりを深め，挨拶や助け合う心が育ってきている。

2　平成28年度　仙台版防災教育で目指すべき児童生徒の姿

【自助】災害に対する正しい知識や対応方法を身に付け，非常時に冷静に判断し，臨機応変に自らの安全を確保できる児童

【共助】非常時に進んで他の人や地域の力となれる児童

3　目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント

教科・領域本来の指導に防災教育を重ねる年間指導計画

4　年間指導計画に基づいて実践した結果，児童生徒はどのように変化したか

防災教育の授業や，各教科と関連した防災の授業を通して，新聞やテレビでの台風や地震のニュースに関心を芯を持ち，正しい知識を得ることができるようになってきた。また，防災に対する意識が高まった児童も多く普段の生活の中でも危機意識を持って活動できる児童が増えてきている。熊本地震の募金活動では，多くの募金が集まり，共助の意識も高まっている。

＜　年間指導計画に基づいた実践の具体　＞

１　授業参観での防災教育①（４学年　年間指導計画１２月）

４年生の１２月のフリー参観で，防災副読本を活用した授業を行った。写真や資料を見て東日本大震災のことを振り返り，寒かったことや，怖かったことなどを思い出すことができた。参観した保護者にも覚えていることを話してもらい，子供たちも真剣に聞いていた。災害時にどんなことが大切かが児童なりに考えることができた。また，保護者にも災害への備えの大切さを啓蒙することができたと思う。

２　授業参観での防災教育②（５学年　年間指導計画１２月）

５年生のフリー参観では東北大学の「結プロジェクト」と連携し，講師を招き防災の授業を実施した。地震のメカニズムを知る活動や家の中の危険個所を見つける活動，災害時の行動の仕方，ハンカチの使い方等を指導していただき児童は意欲的に活動することができた。参観していた保護者も児童の活動を見ながら防災意識を高めることができた。

北中山小学校

第４学年　年間指導計画

	主な学校行事	防災体制整備	教科との関連	特別活動（学活）・道徳との関連	防災副読本
4月	入学式	年間指導計画・組織			
	1年生下校指導	防災マニュアル検討		学活「けがの手当と清潔」	東日本大震災発生（学活）
	授業参観・校長方針説明	校区・通学路安全確認		授業参観時全校集会（防災クイズ等）	
	第１回防災委員会	緊急メール配信整備			
		児童名簿作成（地区名記入）			
		職員緊急連絡網作成	社会　火事からくらしを守る		
		備蓄品確認	理科　天気の様子と気温		
		地区担当職員配置			
5月	復興プロジェクト①	引渡し訓練運営検討	総合　共に生きる		復興へ向けて今を力強く歩む（総合）
	防犯教室	地域防災委員会参加	社会　事故や事件からくらしを守る		
	引き渡し訓練				
6月	避難訓練（地震）	学校建物安全点検①	理科　電気のはたらき		災害が起きたら（行）
	集団下校訓練		社会　水はどこから	学活「安全な避難の仕方」	
	水泳安全指導		体育　水泳		
7月	家庭訪問	地域危険箇所把握	総合　七北田河原探検	道徳「わたしの見つけた小さな幸せ」	
8月	水泳安全指導			学活「夏休みのすごしかた」	
	復興プロジェクト②				
	第2回防災委員会		社会　ごみのしょりと利用		
9月	休憩時避難訓練				
	授業参観・懇談会		総合　共に生きる	道徳「しょうぼうだんのおじさん」	地震のメカニズムを知ろう（学活）
10月			社会　山ろくにひろがる用水		災害から身を守るために（学活）
			理科　水のすがたとゆくえ	道徳「けんちゃんをたすける」	
11月	避難訓練（火災）				
	復興プロジェクト③			学活「安全な避難の仕方」	取り組もう！ボランティア活動（総合）
12月	教育相談	学校建物安全点検②	理科　物のあたたまり方	道徳「いただいたいのち」	応急手当の方法を救急車の呼び方（体）
	フリー参観				一番大事なことは（道）
	第3回防災委員会				
1					
2月	授業参観・懇談会	防災教育年間指導計画策定			ともに前へ（学活）
3月	地域安全点検	校区・通学路安全点検		道徳「走れ江ノ電　光の中へ」	防災知識をチェックしよう・災害年表（学活）

仙台版防災教育　研究推進取組発表校　資料

仙台市立南中山小学校　第２学年

１　学校・地域の実態について

本校は昨年度開校３０周年を迎え，学区には，開校当時からの宅地もあれば開校後に造成された新しい宅地もあり，二世帯家庭と若い家庭が混在している地域である。明るく素直な児童が多く，避難訓練などでは想定に合わせて教師の指示通りに行動し避難することができる。しかし，震災から５年が経過し，当時の記憶があまりない児童も増えている。

震災では，ライフラインが止まった以外は大きな被害はなかった。地域防災訓練を学校と連携して行ってはいない。

２　平成２８年度　仙台版防災教育で目指すべき児童生徒の姿

○　様々な有事の場面を想定して主体的に考え，自分や他者の命を守ろうとする児童

【自助】災害・防災に関する基礎的な知識や対応方法を身に付け，危険を予想して正しい判断のもとに行動できる力を育成する。

【共助】生命を尊重し，地域の安全のために進んで役立とうとする態度を育成する。

３　目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント　（キーワードで）

○　人との関わりや，仙台版防災副読本から学ぶ防災学習

４　年間指導計画に基づいて実践した結果，児童生徒はどのように変容したか

丁寧な指導を繰り返すことにより，災害には様々な場面があることや対応の仕方にも違いがあることに気付くようになってきた。今後は，「自分の命は自分で守ること」，「みんなで助け合うこと」の大切さを更に意識させながら，「児童から地域への発信」にも発展させていきたい。

＜　年間指導計画に基づいた実践の具体　＞

１　津波について知ろう　　（年間指導計画　６月）

秋の遠足で「仙台うみの杜水族館」へ行くので，津波災害の実態と津波から命を守るための具体的な行動について指導をした。地域的に津波の経験や関心が無く，動画や写真の使用にも制限があるので，校舎に津波到達点と同じ高さの表示をしたり，流水の勢いの実験ＤＶＤを見せたりすることで，その実態に迫ることができた。１１月２２日の地震の際には，津波が河川を遡行する映像を教室のニュースで見た。

２　避難訓練②(昼休み・火災想定)　　（年間指導計画　９月）

年間３回実施している避難訓練のうち，９月の避難訓練は「業間休み時間」，「昼掃除時間」などと毎年想定を変え，児童に内緒の抜き打ちで実施している。今年度は「昼休み時間」に実施したが，靴箱付近にいた４年生児童が裸足のまま校庭に避難するなど若干の混乱があった。自分の居場所によって避難の仕方が違うので，「おちついて自分で考えて行動すること」の大切さを再認識するよい機会となった。

３　人との関わりから　　（年間指導計画　６月体育，９月生活科）

体育の水遊び学習では５年生と一緒にプール開きや授業をすることを計画し，５年生から楽しく水に慣れることを学ぶことができた。また，生活科の「町探検」として市民センターの探検も追加した。館長さんの話や防災資機材倉庫の見学を通して，災害時に役立つ施設であるという側面にも気付かせることができた。

４　南中山復興プロジェクト(ＭＰＪＴ・教職員の防災研修会)

震災後，教職員の防災研修会として年間５回程度の勉強会を実施している。年度初めには転入職員を含めて避難経路を確認し合い，夏休みには教職員と連合町内会とで仙台版避難所運営ゲームの研修会を実施した。１月末には防災副読本の活用事例を紹介し合い，お互いの防災教育や有事の際のスキルアップに努めている。

仙台市立南中山小学校

第２学年　（防災教育）　年間指導計画

		知　識	技　能	態　度	
		防災や災害に関する周辺的・基礎的な内容	防災や災害に関する直接的な内容	防災や災害に関する間接的な内容	
月	関連行事	教　科	総合	特　活	道　徳
4	・低学年交通教室 ・集合訓練①(校庭) ・警報ブザー訓練 ・集合訓練②(室内)		・安全な歩行・横断（歩道・交差点・信号） ・集合の仕方 ・避難訓練事前事後指導	・警報ブザー発報時の対応 **・地しんについて知ろう(3章①)**	・生命尊重 **・考えよう友だちのこと(2章②)**
5	・避難訓練①(地震) ・玄関訪問 ・復興プロジェクト ・引き渡し訓練	市民センターの館長から，防災施設としての役割を学ぶ。	・災害時の避難と家族の約束	**・いっしょにまえへ(1章②)**	地震や津波の実態を知り,命を守るための具体的な行動や態度を知る。
6	・防犯訓練・防犯教室 ・集団下校訓練	・どきどきわくわくまちたんけん(生活)	・不審者侵入，遭遇時の対応 ・集団下校の仕方	**・つなみについて知ろう(3章②)**	
7・8	・南中山夏祭り ・復興プロジェクト	・水あそび(体育) ５年生と一緒に水遊びをしながら水に慣れていく。	休み時間のいろいろな場所からの具体的な避難方法を知る。	・夏休みの生活 ・地域行事への参加 ・遠足で災害発生時の対応	
9・10	・秋の遠足 ・避難訓練②(火災・昼休憩時) ・地域防災訓練 ・集合訓練③(校庭)	災害時に地域の人々とともにとるべき行動について知り，防災訓練に関心を持たせる。	・避難訓練事前事後指導 **ぼうさいくんれんにさんかしよう(4章⑦)** ・集合の仕方	**・手をつないで(5章③)** ・学芸会で災害発生時の対応	
１１	・学芸会 ・避難訓練③(火災) ・復興プロジェクト	・みんなでいこうよ つかおうよ(生活) **・ふっこうをめざして(生活・2章④)**	・避難訓練事前事後指導 ・火災発生時の対応 避難する方法	火災発生時の具体的な避難方法を担任や消防署の方から学ぶ。	・生命尊重
１２	・集合訓練④(室内)	**・見つめよう　わたしの心(体育・4章⑩)**	・集合の仕方	・冬休みの生活	
1	・集合訓練⑤(校庭)	災害で大きなショックを受けた時の心と体の変化,その対処について理解する。	・集合の仕方	・地域の危険箇所 **・わたしたちにできること(5章⑤)**	・郷土愛
2		・もっとなかよしまちたんけん ・聞いて聞かせてまちのすてき(生活)		その時々の自分にできることを考え,実践しようとする態度を育てる。	・生命尊重
3	・東日本大震災関連行事			**・ぼうさい知しきチェックしよう(6章①)** **・仙台のさいがい年ぴょう・ふっこう年ぴょう(6章③)** ・春休みの生活	

仙台版防災教育　研究推進取組発表校　資料

仙台市立南中山中学校　第１～３学年

１　学校・地域の実態について

・学区内では東日本大震災による大きな被害もなく，本校体育館に設置された避難所も数日の開設であった。その反面大きな被害を受けた生徒も在籍しており，具体的に震災についてどのように取り扱うべきかを迷う場面もあった。
・地域の防災訓練に例年生徒は参加しているが，さらに主体的な活動になるよう働き掛けていきたい。

２　平成２８年度　仙台版防災教育で目指すべき児童生徒の姿

・各教科・境域のなかで防災教育読本を活用して防災について学び，防災対応力を身につけた生徒。
・地域の災害に対する備えなどを知り，社会や家族の一員として自ら支援活動に取り組める生徒。

３　目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント（キーワードで）

・生徒が自ら考え，地域とともに取り組む防災教育

４　年間指導計画に基づいて実践した結果，児童生徒はどのように変容したか

・避難所設営体験学習などを通し，中学生としてできることを自覚し防災対応力の向上につながった。
・防災教育読本の活用や教科の学習を年間計画のなかに位置づけたことで，災害や防災に関する知識が基礎となり自ら考える力がついてきた。

＜　年間指導計画に基づいた実践の具体　＞

（１）連合町内会主催の防災活動への参加

本校学区内の連合町内会主催で９月に行われる災活動にボランティア生徒が毎年参加させていただいている。地域住民との連携や関係機関との協力体制の確認,住民の自助・共助の意識を高め防災活動の活性化等が主なねらいではあるが,防災活動に参加することで自分たちも地域の一員であるという自覚と,地域のなかで中学生の力が必要とされていると実感できることが,生徒たちの防災対応力の向上につながっているのでないかと考える。

（２）１学年　防災学習

１学年は夏休みの登校日に防災学習に取り組んでいる。はじめに地域の包括支援センターの方から,開設された避難所でどのようなことに注意して活動を進めたらいいかについてお話しをいただく。その後,仙台市の地域担当者に来ていただき,避難所設営の体験活動を行っている。実際に備蓄倉庫にある備品を教職員も確認し,生徒たちは組み立て作業や使用方法を経験する。実際に触れることで,防災について関心を高めている。

仙台市立南中山中　学校

第　1~3　学年　　（　平成28年度　防災教育　）　年間指導計画

		知　識		技　能		態　度	
学習内容		防災や災害に関する周辺的・基礎的な内容		防災や災害に関する直接的な内容		防災や災害に関する間接的な内容	
月	関連行事等	教科	総合		特活		道徳
4	・「安全のきまり」の確認 ・安全点検 ・危機管理体制に関する研修				・各教室からの避難経路確認（全）	・非常時等生徒引き渡しカードの記入、確認（全） ・通学路及び危険箇所の確認（全）	
5	・安全点検 ・中学校区小中連携主任者会（1） ・故郷復興プロジェクト活動（1）			・旅行的行事における災害時対応（全）			・「自分の番～命のバトン」①
6	◎避難訓練（地震想定） ・地区生徒会 ・安全点検（通学路を含む） ▲地域学校安全委員会		・避難訓練事前学習（防災副読本）（全）	・地区生徒会～非常時の引き渡し確認（全）			・「軽いやさしさ」②
7	・安全点検 ・救急体制の見直し （夏季休業中を含む） △光明支援学校交流会③ ・故郷復興プロジェクト活動（2）	・「小さな町のラジオ発」国語②				・夏休みの過ごし方（全）	・「語りかける目」①
8	・中学校区小中連携主任者会（2） ▲地域特別活動～ボランティア生徒の参加 ◎防災学習① ・避難所設営に関する研修			・防災学習～避難所設営に関する体験活動①		・防災学習事前指導～防災副読本「約束」①～地域で求められる中学生の力	
9	・安全点検 △みやぎ夢燈火～ボランティア生徒の参加 ▲校区連合町内会主催防災活動 ～ボランティア生徒の参加 （南中山連合町内会　9／17） （北中山連合町内会　9／25） △光明支援学校交流会②	・「空を見上げて」国語①					・「ドナーカード」③
10	・安全点検 ▲地域学校安全委員会	・「平家物語」「和歌」国語②③ ・「天気とその変化」理科②				・防災副読本「古典から学ぼう」②③ ・防災副読本「風水害に備えよう」②	・「命の重さ」②
11	・安全点検 ・防火設備、用具の点検 ◎避難訓練（後期）（火災想定） ◎防災学習② ・故郷復興プロジェクト活動（3）	・「地方自治」社会③	・避難訓練事前学習（防災副読本）（全）	・防災学習② ＊心肺蘇生とAED ＊ハザードマップの作成		・防災学習事前指導～防災副読本「知っておきたい救急救命」② ・防災副読本「仙台市復興計画を知ろう」③	・「ようこそ『やねせん』へ」③
12	・安全点検 △光明支援学校交流会①					・冬休みの過ごし方（全）	
1	・安全点検（通学路を含む）	・「活動する大地」理科①				・防災副読本「地震を科学の目でとらえよう」①	・「心がひとつに」③
2	・安全点検 ・故郷復興プロジェクト活動（4） ・中学校区小中連携主任者会（3） ▲地域学校安全委員会	・「大地の変化」理科① ・「自然と人間」理科③	・防災副読本「防災知識」（全）				・「あなたはすごい力で生まれてきた」①
3	・安全点検	・「世界と日本の自然環境」社会②				・春休みの過ごし方（全）	・「三蔵さんの田んぼ」②

＊△▲は地域連携活動、地域連携につながる活動

＊①②③は学年の取り組み、（全）は全校での取り組み